

蓋シ法律ノ旨趣ニハ非サルナリ
草案ノ法文ハ此反對ノ意義ヲ有スルニ付キ疑團ヲ
生セシムルヲナカル可シ

債權ノ移轉ニ係リ債主
者ノ債權受入ニ付スル
事ノ應如何

我草案ニモ亦佛蘭西法典ニモ債主權ノ存在ナクシ
テ擔保ノ義務ヲ負擔シタル時ニ於テ讓與者ノ義務
ノ廣狹如何ナルヤヲ說明セス此場合ニ於テハ普通
法ヲ適用スルヲ要トス故ニ讓與者ハ其讓與ノ代價、
其契約ノ費用及ヒ被讓渡者カ勝利ヲ得タル訴訟入
費ヲモ返還セサル可カラサルヤ明カナリ、斯ル訴訟
入費ヲ讓受人ニ返還セサル可カラサルモノハ是レ

蓋シ讓受人ニ於テ該入費ヲ拂ヒシモノナレハナリ
又讓與者ハ損害賠償ヲ拂ハサル可カラス抑モ茲ニ
謂フ損害賠償トハ讓受人カ讓與ニ付テ希望セシ利
益ニ關スルモノニシテ此利益ハ債主權ノ全額ト讓
與ノ代價トノ間ニ存スル差異ニ外ナシ○例ヘハ讓
受人千圓ノ債主權ヲ八百圓ニテ買受ケタル時ノ如
シ、實ニ債主權ハ存在セシモノトセン然レモ義務者
無資力ニシテ其資力ノ擔保ナカリシ時ニハ讓受人
ハ毫モ訟求權ヲ有セサル可シ若シ其資力ノ擔保ア
リシ片ハ讓受人ハ讓與ノ代價ヲ取戻スノ權利アル

可シ然レトモ、茲ニハ債主權ノ存在セサル場合ニ關スルヲ以テ讓受人ハ其存在セサルヲヨリ生スル損毛ヲ引受ク可キ理由ナシ是レ猶吾人カ後文爭訟ノ權利ノ讓與ニ關シテ見ル所ノ如シ是ヲ以テ讓受人ハ債主權ノ全額ヲ取戻スヲ以テ正當ノトトス然レトモ其不成立ノ負債ノ義務者ナリト稱スル者無資力ノ人タル場合ヲ想像セン○此場合ニ於テ若シ其債主權ノ存在センモノニシテ且讓受人被讓渡者ヨリ獲得ス可キ額面カ讓與ノ代價ヲ超過スルトハ讓與者ハ其額面ノミニ擔保者タルニ過キス○實

ニ讓與者ハ讓受人ニ對シテ假令ヒ債主權存在セシモノナリトモ全額ヲ獲得セサル可シト云フニ妨ケナシ蓋シ賠償高ハ眞ニ加ヘタル損害ノ高ヲ超過セサル可キモノナレハナリ

第七百五條 物權ト入權トヲ間ハス訴訟中ニ係ル權

利ノ讓渡ニ付キ特別ノ合意ナク且ツ讓受人ニ於テ其訴訟中ノモノナルヲ知リ居タルハ讓渡者只其主張スル事實現存ノ擔保人タルノミニシテ其權利實存ノヲニ付テハ擔保人タルラス其權利ハ己ニ基本ニ付キ明瞭ナル爭論ノ目的タル

キニ非ラサレハ本條ノ適用ニ係ル訴訟中ノモノト
 之ヲ見做サ、ルモノトス但シ其爭論ハ裁判上ノモ
 ノナルト裁判外ノモノナルトヲ區別スルニ及ハス
 第七百六條 讓渡者カ前條ノ場合ニ於ケル擔保ノ責
 ヲ負フタルキハ讓渡代價返還ノ外尙ホ讓受人ノ正
 當ニ希望シタル利益ノ賠償ヲ爲ス可キモノトス

註解

第七百五條 蓋シ或人ニシテ訴訟中ニ係ル權利又ハ
 利益ヲ有シ而シテ裁判所ノ審判ヲ待ツノ時ヲモ有
 セス又其訴訟入費ニ堪ユルノ資力ヲモ有セサルコ

アル可シ即チ右ノ場合ニ於テ其人カ其主張スル事
 實ノ幫助タル證據ヲ以テ該權利又ハ主張ヲ讓リ渡
 スノ權能ヲ有スルハ實ニ當然ノコト云フ可シ
 羅馬法ニ於テハ訴訟ノ目的タル物件ヲ占有シ又ハ
 訴訟中ニ係ル權利ヲ實行セサル者ニ其權利ノ讓渡
 ヲ禁シタルハ勿論尙ホ右物件占有者ト雖モ其權利
 讓渡シノコトニ付テハ多少ノ障礙ナキニアラサリシ
 カ中古時代ニ於テ右羅馬法中ノ嚴格ニ過キタル條
 例ヲ廢止シタリ○故ニ現今ニ於テ原告人ハ被告人
 ト等シク其己レニ屬セリト主張スル所ノ權利ヲ賣

リ渡スヲ得可キナリ
 又法律ハ訴訟中ニ係ル物權ニ關スル時ト訴訟中ニ
 係ル債主權ニ關スル時トヲ區別スルコトナシ
 訴訟中ニ係ル權利ノ讓渡人ノ負フ可キ擔保ノコトニ
 至リテハ他ノ賣買又ハ讓渡ノ擔保トハ大ヒニ差異
 アルモノニシテ訴訟中ニ係ル權利讓渡ノ擔保ハ其
 讓渡物件ノ性質自ラヨリ生スルモノタル可シ
 蓋シ物權又ハ債主權ノ通常賣買ニ於テ賣主ハ其讓
 渡物件存在ノコト及ヒ其物件カ自己ノ利益ノ爲メ存
 在セルコトニ付テハ當然ノ擔保人タルモノニシテ即

係多物賣買担保
 廣狹如何

チ賣主ハ該物件ノ權利ハ己レニ屬スルモノナルコト
 ヲ擔保セサル可ラス
 然レモ爰ニ論スル訴訟中ニ係ル權利ノ讓渡ニ於テ
 ハ讓渡者ヲシテ普通賣買ニ於ケルカ如キ擔保ノ責
 ニ從ハシムルコト能ハス何トナレハ右權利タル訴訟
 中ニ係ルモノトシテ賣渡サレタルモノナレハナリ
 ○其然リ故ニ買主ニ於テ物件ニ存スル權利ノ訴訟
 中ニ係ルモノナルコトヲ豫知セシキハ(而シテ其之ヲ
 豫知シタルコトヲ假想ス可シ)買主ハ己ニ奪取ノ危險
 アルコトヲ知ルモノニシテ固ヨリ其損失ト危險トヲ

以テ之ヲ買取リタルモノナル可シ○然レハ人或ハ主張スルモノアラン彼ノ訴訟中ニ係ル權利ノ買主ハ其訴訟ニテ僥倖ノ利ヲ得ント計ルモノニシテ其之レニ關係スルハ訴訟終局ヲ容易ニスルヨリハ寧ロ之ヲ混雜セシメ從テ之ヲ遷延スルモノナルノ故ヲ以テ法律ニテハ恩惠ヲ與エサル該買主ニ對シテ余リ嚴重ニ過クル所アル可シト然レハ右ノ不都合タル決シテ擔保ノ事項ニ於テ生出ス可キモノニアラス只被讓者ニ供與シタル其讓受人ニ讓受代價ヲ辨償シテ爭論アル權利ノ訴訟ヲ終局スルノ權能

ニシテ即チ買返消訴權（被讓者ヨリ讓受人ニ其讓受代價ヲ拂フテ訴訟ヲ終局スルノ權）ト稱スル權能實行ノ場合ニ於テ生出ス可キモノタルナリ

然レハ茲ニ讓渡權利ノ成立ノ擔保ノ事ニ付キ注意スヘキ特例アリ蓋シ此事項ノ普通法ヲ適用スル片ハ買主カ奪取ノ危険ヲ知リタルノ一事ノミニテハ之ヲシテ損害賠償ノ權ヲ失ハシムルノミニテ敢テ其代價返還ノ權ヲ失ハシムヘカラサルナリ然ルニ此處ニハ此權利スラ猶ホ之ヲ有セサルモノトシ其賣買ハ特ニ其損耗擔當ノ性質ヲ附シタルモノニ非

ヲサレ此性質ヲ具フルモノトス後段ニ至リ買主ノ「損耗擔當」於テ爲サレタル賣買ハ之ニ一切ノ擔保權ヲ奪フモノナルヲ述フヘシ
 然レ此亦タ賣主ハ何等ノ擔保ヲモ爲スニ及ハサルモノナリト謂フ可カラズ蓋シ爭訟アルヲ見レハ賣主何等ノ權ヲモ有セサルヲアルヘキモ少クモ一ノ主張スル所アルモノナリ然レ此法律ハ其主張スル所正當ニシテ根據トスル所アルヲ必要トセス(之ヲ必要トスルニ於テハ賣主ヲシテ訴訟ノ勝利ヲ擔保スルノ義務ヲ負ハシムルニ外ナラサル可シ)又其主

張スル所誠實ナルヲ詳言スレハ讓渡人其權利アルヲ確信スヘキヲモ必要トセス唯タ其有實着實ナルヲ詳言スレハ其空想虛構ニ非ラサルヲ以テ足レリトス當ニ足レリトスルノミニ非ラス亦タ以必要ナリトス否ラスンハ誰レ彼レノ差別ナク之ニ對シテ最モ不當ナル訴訟ヲ起シ爭訟ニ係ル虛託ノ權利ヲ賣渡シ詐偽ヲ以テ資本ヲ得ルニ至ルヘキナリ
 然レ此權利成立ノ擔保ヲ除却スルニハ主張スル所有實ナルノミヲ以テ足レリトセス亦タ其讓受人カ爭訟ヲ知了セルヲ要ス○而シテ讓渡權利ニ爭訟ニ係

ルノ稱アラストモ他ノ方法ニ依リ讓受人此性質ヲ
知了シタルノ證ヲ舉クルヲ得ルトキハ則チ可ナリ
敢テ特ニ右ノ稱ヲ要セサルナリ○然レモ讓受人爭
訟ヲ知ラサリシキハ其損耗擔當ニ於テ買受ケタル
モノト看做サル可ラス

買受場合の争訟
リト之の争訟

又法律ハ此處ニ争訟ト看做ス可キモノヲ詳カニ確
定スルヲ必要トシタリ○蓋シ普通ノ場合ニ於テ
ハ眞ノ訴訟起リ一訴訟ノ裁判所ニ持出サレサル限
リハ争訟アリト謂フヲ得サレモ此處ニハ裁判外ノ
處置ヲ以テシタル公然ノ争論モ亦之ト同一ノ地

位ニ置ケリ○例ヘハ讓渡者讓渡前ニ在テ既ニ其稱
シテ義務者トスル所ノ者ニ負債ヲ辨済スヘキノ督
促ヲ爲シタルニ右義務者ニ於テ其既ニ辨済シ了リ
タルカ故又ハ其他ノ原由ノ故ニ其義務ヲ負ハサル
旨ヲ法式ニ依レル處置ヲ爲シテ返答シタルカ如シ
○又讓渡權カ争訟ニ係ル物上權ナリト仮定スルモ
ハ其不動産ノ督促者ニ屬スルモノトシテ占有者之
ヲ引渡スヘキノ督促ヲ受ケタルモ争訟アリトス
茲ニ物上權ト對人權トノ差異アルニ注意ス可シ蓋
シ權利ノ對人タルモハ權利者ト自稱スル者辨済ス

物上權人カトシテ已別

ヘキノ督促ヲ爲シタルキニテハ猶ホ未タ争訟アリトセス、又未タ争論スルニアラス或ハ義務者其督促ニ従フコアラシ、故ニ義務者其義務ヲ負ハスト、言ヒ出シタルキニ非ラスンハ争訟ノ始マリタルモノニ非ラス之ニ反シテ物主權ニ係ルキハ占有者引渡ノ督促ヲ受ケタルハミニテ争訟ノ起リタルモノトスルニ足レリトシ敢テ其督促ニ強辨スルヲ必要トセス此督促タル既ニ占有正當トノ牴觸トスルニ足ルヘキナリ○裁判所ヘノ訴訟ニ付テモ亦タ對人權ト物上權トノ區別ヲ爲ス可キモノトス蓋シ義務者ト

稱セラル、者ニ對シテ行フタル訴訟ハ未タ以テ争訟ノ起リタルモノト爲スニ足ラス亦タ訴訟却下ヲ旨トセル論結ヲ以テ答辨ヲ爲シタルヲ要ス然ルニ物上權ノ事項ニ付テハ占有者ニ對シテ行フタル取戻ノ訴ヲ以テ争訟ノ起初ト爲ス可キナリ以上述ヘタル如ク裁判外ノ争論ヲ以テ争訟アリトスルハ即チ争訟ナル字ノ意義ヲ擴張スルモノナリ然レモ一他ノ點ヨリ觀察ヲ下セハ其意義ノ減縮セル所アリ

例ヘハ通常對人ノ事件ニ就テハ義務者其義務ヲ否

拒セサルモ裁判所ノ管轄ヲ争ヒ又ハ其期限ノ到着
 セルヲ否拒セルキハ争訟アリト云ヒ又物上ノ事件
 ニ就テモ管轄ヲ争ヒ又ハ訴權ヲ行フニ請願ニ出テ
 ス占有ニ出ルモ等シク争訟アリト云フ○然ルニ此
 處ニハ争論ノ係ル所權利ノ眞底ナルヲ要シ義務者
 其負債ヲ否拒シ又原告ナレハ所有權ヲ取戻サント
 シタルモノニシテ占有取戻ニ止マラサルヲ要ス
 此最後ノ點ヨリ觀察ヲ下セハ草案モ亦タ佛蘭西法
 典ト(第一千七百條)合一ナリ然レモ草案ノ之ト異ナル
 所ハ裁判外ノ争論ト裁判上ノ争論トヲ同一ノ位地

ニ置キタリ蓋シ佛蘭西法ハ裁判上ノ争論ヲ必要ト
 シ權利ノ眞底ニ付キ訴訟アルヲ必要トセリ

第七百六條 佛蘭西法典ハ争訟ニ係ル權利ニ付キ讓

渡者ノ負フヘキ擔保ノ事ヲ不問ニ附セリ蓋シ該法
 典ハ此事項ニ付キ二个ノ條例アルノミナリ其一ハ
 既ニ論述セシ所ニシテ争訟ニ係ル權利ノ買受ヲ或
 ル人ニ禁スルモノナリ(前段第六百七十六條及ヒ佛
 法第一千五百九十七條)他ノ一ハ以下將ニ論究セント
 スル所ノモノニシテ讓渡シタル争訟ニ係ル權利ヲ
 對抗セラル、者ニ讓受人ノ關係ヲ解キ以テ争訟ヲ

終ルヲ許スモノナリ(參看佛法第一千六百九十九條
乃至第一千七百一條)

佛蘭西法典ニハ草案カ前條ニ於テ爲シタルト異ナ
リ讓渡者ノ擔保ヲ制限セサルト雖凡學者ノ論說及
ヒ裁判事例ニ於テハ讓渡者ニ擔保ノ通常ノ義務ヲ
負ハシメス蓋シ賣渡物件ノ性質ニ從ヒ我輩カ該義
務ニ加ヘタル制限ハ概シテ採用セラレタルモノナ
リ
茲ニ規定スヘキモノハ讓渡者ノ主張スル所着實ニ
非ラス又ハ讓受人カ其權利ノ爭訟ニ係リタルヲナ

知ラサル二个ノ擔保アル場合ニ於ケル區域ナリ○
此二个ノ場合ニ於テハ讓渡者毫モ利益ヲ受クヘキ
モノニ非ラス擔保ノ義務ハ例外ニ制限セラル可キ
モノニ非ラス故ニ讓渡者ハ讓渡ノ代價、契約ノ費用
及ヒ其他一切ノ損害賠償就中第三ノ人トノ訴訟入
費ニシテ其敗訴シタルカ爲メ之ニ辨濟スヘキモノ
ヲ償還セサル可カラス加之讓渡者ハ債主權讓渡ノ
場合ニ於テハ讓渡代價ト債主權ノ証書面金額トノ
差異ヲ負擔ス可シ物上權ニ係ルルハ讓渡者讓渡代
價ノ外ニ見積價額ノ超過高、讓渡物件ノ増價額ヲ負

擔ス可シ是レ讓渡者例外ノ場合ニ在ラサル限りハ
普通法ノ適用ヲ爲スヘキカ故ナリ

第七百七條 何人ニ限ラス開始シタル相續財産ノ全
部又ハ一部ニ付キ自己ノ有スル權利ヲ賣渡タル者
ハ其賣渡タル部分ニ付キ相續人又ハ包含財産ノ名
義ニ於ケル受遺囑者ノ身分ヲ以テ該相續財産上ニ
自己ノ有スル權利存在ノ擔保者タル可シ但シ分量
ノ定マリタル利益額ニ付テハ其者ニ於テ之ヲ擔保
ス可キ旨ヲ陳述シタル^{エモリユ}ル^ニ非サレハ其擔保者タラ
サルモノトス

第七百八條 若シ又其者ニ於テ如何ナル部分ニ付キ
相續人タリ又ハ受遺囑者タル旨ヲ特別ニ指定セス
シテ自己ノ權利ヲ其存スル儘ニテ賣渡シタル^ル^ルハ
買主ハ他ニ相續人又ハ受遺囑者ノ欠ケタル部分ノ
増加ヲ利得シ又其反對ノ場合ニ於テハ其部分ノ減
少ヲ受ク可シ

第七百九條 何レノ場合ニ於テモ相續財産ノ讓受人
ハ相續財産ノ負擔スル義務ノ爲メ生ス可キ總テ將
來ノ訴訟ニ對シ賣主ヲ擔保ス可キモノトス
若シ賣主ヨリ相續財産ノ負擔ス可キ義務ノ全部又

ハ一部ヲ既ニ辨濟シ又ハ其財産保存ノ爲メ出費シ
 或ハ又賣主自カラ其財産ノ負擔ス可キ債主權ヲ有
 スルキハ讓受人ニ於テ賣主ニ是等ノ計算ヲ爲ス可
 キモノトス
 又賣主ヨリ相續財産ニ拂フ可キモノ又ハ其財産ニ
 屬スル債主權ニ據テ他ヨリ受領シタルモノ及ヒ其
 他該財産ヨリ得タル利益ニ付テハ讓受人ニ其計算
 ヲ爲ス可キモノトス

註解

第七百七條 法律上未タ開始セサル相續財産ノ賣買

ヲ禁スルコトハ吾人ノ知了スル所ナリ(第三百四十二
 條)其禁止ノ理由ハ之ヲ掲ケタル場所ニ於テ既ニ説
 明セリ(第三百四十二條註解第九十九號)

然レトモ一旦相續ノ開始シタルキハ相續人ハ其清
 算ヲ待タスシテ其遲延ト困難トヲ省カンカ爲メ自
 己ノ相續權ヲ讓渡スコトヲ得ルモノナリ○包含財産
 ノ受遺囑者又ハ包含財産ノ名義ニ於ケル受遺囑者
 モ亦右同一ノ權能アルモノトス而シテ適法相續人即
 チ法律ノ條例ニ依テ命セラレタル相續人ニ反對シ
 時トシテ右包含財産ノ受遺囑者ヲ遺囑相續人ト稱

スルコアリ
 斯ノ如キ賣買ニ關スル擔保ノ目的及ヒ其廣狹如何
 ヲ確定スルヲ要ス
 若シ此場合ニ於テ或ル合意ヲ爲セシハ必ス之レ
 ニ從フ可シ法律ハ未タ何等ノ特別合意ヲモ爲サ
 ル場合ノミヲ規定セリ
 賣主ハ其讓渡シタル權利存在ノ擔保者タル可キ
 即チ之ヲ詳言スレハ自カラ相續人又ハ受遺囑者タ
 ル分限アルコトノ擔保者タル可キコト當然ナリ而シテ若
 シ賣主相續財産ノ全部又ハ定マリタル配當部分ニ

賣主相續財産ノ擔保

付キ相續人又ハ受遺囑者ナリト明言セシハ其明
 示シタル自己ノ權利ノ廣狹ニ付キ擔保者タル可シ
 ○茲ニハ唯普通法ヲ適用スルニ過キス
 然レトモ法律ハ此賣主ヲ以テ定マリタル利益額ノ
 擔保者ニ非スト論定セリ○蓋シ買主ニ於テハ現ニ
 相續中ニ存スル財産ノ分量ヨリ更ニ巨大ノ分量ヲ
 希望スルコトアル可ク、負債モ亦買主ノ豫見外ニ更ニ
 巨額ノモノタルコトアル可ケレハナリ
 然レモ買主ニ於テ利益ノ最下額ヲ約權セサル場合
 ニハ賣主ハ之レカ擔保人タラサルハ勿論又賣主自

ヲト雖凡買主ノ豫期セサル偶然利益ノ超過額ヲ返還セシムルヲ得サル可シ然レ凡爰ニテハ擔保ニ關スル普通法ニ例外ノ制限アルモノト見ル可ラス何トナレハ己上ノ場合ニ於テ賣主ハ相續物トシテ確定物件ノ若干數ヲ賣渡スニアラスシテ多少巨大ノ廣サナル包合物ヲ賣渡シタルモノナレハナリ(第十七條第四項)其レ然リ故ニ賣主ニシテ其明言シタル相續人又ハ受遺囑者ノ權利ヲ有スル以上ハ右賣主ハ固ヨリ其讓渡セシ包合物上ニ權利ヲ有ス可キナリ

第七百八條 本條ニテハ賣主カ其相續人タリ若シクハ受遺囑者タル財産ノ部分ヲ明示セサルノ場合ヲ假想シタリ故ニ右ノ部分タル或ハ其全部タルコアル可ク或ハ只其一部分ノミニ止マルコアル可シ蓋シ今日ニ至ル迄日本ニ於テハ許多ノ相續人ノ同時ニ一個ノ相續ニ應スルハ極メテ稀レナルコナリ然レ凡日本ニ於テ將來右相續ニ關スル法律ヲ定ムルニ當リテハ古昔ノ習慣及ヒ口碑ヲ本トシ實子ノ相續人タル場合ニ於ケルヨリハ寧ロ傍系親ノ相續人タルノ場合ニ於テ同時ニ許多ノ相續人ノ參同

スルヲ認許スルニ至ル可キナリ○然レモ若シ遺囑ノ風習ニシテ日本ニ行ハル、ニ於テハ場合ノ如何ヲ問ハス遺囑者カ其財産ノ均一若シクハ不均一ナル部分ノ爲メ包含名義ニ於ケル許多ノ受遺囑者ヲ設クルコアルニ至ル可シ

然レモ數多ノ相續人又ハ受遺囑者アルノ場合ニ於テハ至難ノ論題アリテ生出ス可ク而シテ右ノ論題タル佛蘭西法ニ於テハ未タ決定シアラサル所ニシテ從テ羅馬法ニ於テモ佛蘭西法ニ於テモ常ニ激論ノ主眼タル所ナリ其レ是ノ如シ故ニ右ノ事項ニ

關シ一個ノ新制ヲ設クルコトニ付キ己ニ困難アル可キ日本ニ於テハ右難論ノ再出セサルコソ實ニ希望シテ己マサル所ナリ

均一又ハ不均一ナル部分ノ爲メ同一ノ相續ニ應ス可キ許多ノ相續人又ハ受遺囑人アルノ設例ニ於テ若シ右相續人又ハ受遺囑者ノ總テカ其部分ヲ得ル爲メ法律上ノ資格ヲ有スルモノニシテ且ツ總テ其相續ノコトヲ承認セシ時ハ各部分中ノ一部ヲ買受ケタル者ハ其賣主タル相續人又ハ受遺囑者ニ代リテ他ノ相續人又ハ受遺囑者ト共ニ右相續財産ノ分派

〇與ル可シ
 然レモ若シ代權人中一人ノ其部分ヲ受クルニ無能
 力又ハ不適當ナルカ或ハ之ヲ拒絕シタルカ或ハ又
 相續若シクハ遺囑財產ヲ遺留シタル人ノ(附言アリ)
 死去前ニ死シタルモノアルハ他ノ代權人ノ有ス
 ル部分ハ爲メニ増加ス可キモノニシテ即チ右ノ場
 合ニ於テハ他ノ代權人ノ部分ニ増額即チ増加ア
 ト云フ〇然ラハ則右ノ場合ニ於テハ買主ノ右増加
 ナ利得スルヲ認許ス可キモノナルヤ
 附言 此語タル(デ、キユフ、シユクセシヨチ、アギチユ

ール)ノ畧語ニシテ之ヲ佛語ニ譯スレハ(相續財產
 ナ遺留シタル人)ト云フ意ニテ即チ該語ハ(死者)ト
 同意義ナリ然レモ若シ爰ニ二人ノ死者アルコト
 假想スル時ハ彼此ノ爲メ適用スルニハ同一ノ語
 辭ヲ用ユルコト能ハス
 佛國ニ於テ買主ニ右ノ増加ヲ拒絕スルノ論者ハ此
 増加アルコトハ双方ノ者ノ意思中ニモ又豫想中ニ
 モ存セサルモノナレハ之ヲ利得セシムルノ謂レナ
 シト主張セリ〇又前ニ反シテ相續又ハ遺囑ニ應ス
 可キ一人ノ相續人又ハ受遺囑者アリ而シテ其如何

ナル等親ニ屬スルモノナルヲ知ラサルカ又ハ受遺
 囑者カ其遺囑アリシヲ知ラサルカ或ハ又右受遺
 囑者ノトニ付キ絶テ風聞ナキニ依リ之ヲ以テ相續
 又ハ遺囑財産ノ遺留人ヨリ前ニ死シタルモノト思
 惟セシノ故ヲ以テ其權利ヲ知ラサルノ場合アリテ
 存ス可シ即チ此場合ニ於テ他ノ者ノ權利ハ其權利
 ノ知レサル相續人又ハ受遺囑人ノ有スル權利ノ限
 度ヲ以テ減少ス可シ即己上ノ場合ニ於テハ減額ア
 リト云フ○然ラハ則チ右ノ場合ニ於テ相續財産中
 ノ一部分ヲ買受ケタル買主ノ權利ハ減少ス可キモ

ノナルヤ

蓋シ己上ノ事タル買主ノ此新相續人トノ關係ニ付
 テハ又疑ヒアルトナシ何トナレハ該新相續人ノ全
 ク無關係ナル己上ノ賣買ハ之ヲ害スルヲ得サレハ
 ナリ然レモ買主ノ其賣主トノ關係ニ於テハ剝奪ヲ
 受ケタル其權利ノ部分ノ爲メ賣主ニ對シテ擔保ヲ
 要ムルノ訟求權ヲ附與ス可キモノナルヤ
 蓋シ右ニ關シ草案ニテ附スル所ノ論決ハ關係人意
 思ノ大概ト相續ノトニ關スル普通原則トヲ調和セ
 リ○是ヲ以テ賣主カ(其自ラ有スル儘ニテ)又ハ別ニ

相續財産上其部分ノ高ヲ明示スルコトナク其權利ヲ
 賣渡シタル己上ハ買主ハ許多ノ相續人及受遺囑者
 ノ權利確定ノ後チ法律上ニテ定メタル所ノ其部分
 ニ權利ヲ有ス可シ其レ然リ故ニ買主カ不期ノ増額
 ヲ利得スルノ利運ヲ有スル己上ハ買主ノ減額ニ依
 リテ其權利ノ減少ヲ受クルコトアル可キハ實ニ正當
 ノコト云フ可キナリ○然レモ己上ノ場合ニ於テ賣
 買ニ多少廣大ナル効力ヲ歸スル爲メ特定ノ法文ヲ
 用ヰルコトヲ要セサル可シ何トナレハ前記ノ契約者
 ノ意思如何ノコトハ事情ノ總体ニ據リテ知ルヲ得可

キモノナレハナリ

故ニ若シ賣主ニシテ共同相續人又ハ共同受遺囑者
 ノ數及ヒ其共同相續人又ハ共同受遺囑者ノ有スル
 權利ノ高チ指示シタルモ己上之レニ依リテ該相續人
 又受遺囑者ノ賣主ト參同スルヲ認許スルノ部分テ
 示指セント欲シ若シ又他ノ代權人ノ出テタルモ己上
 賣主ハ買主ニ對シテ其賠償ヲ負擔セント欲シタル
 ヤ明カナリ之レニ反シテ若シ未得ノ部分アリテ存
 スルニ於テハ買主ハ之ヲ利得スルコトヲ主張シ得可
 ラサルノミナラス其利益ハ之ヲ賣主ニ返還セサル

可ラス

相續の重買は自外に
對して如何

第七百九條 相續權ノ賣買ハ其讓受人ヲシテ全ク賣主ノ地位ニ代ハラシムルコトナシ何トナレハ右ノ場合ニ於テハ何等ノ更改アリテ生スルコトナク相續財產ニ對スル權利者ハ常ニ相續人ニ對シテ直接ニ其訟求權ヲ保存スルモノナレハナリ然レモ讓渡者ト讓受人トノ關係ニ於テ右讓渡ノ結果ハ讓渡者ヲシテ相續財產ニ對スル一切ノ義務ヲ免レシメ且ツ之レニ相續財產ヨリ生スル一切ノ利益ヲ奪去セサル可カラス

即チ本條ノ法文ニテハ右ニ關スル重立チタル結果ノトヲ論究セリ

其第一ノ結果トハ讓受人ノ負擔ス可キ義務ニシテ賣買己後ニ係ル總テノ訟求ニ對シテ讓渡者ヲ保護スルノ義務即チ是ナリ○蓋シ最初一見スル所ニ依レハ總テ擔保ノ義務ハ買主ノ利益ノ爲メ賣主ニ課ス可キモノナルニ右擔保ノ義務ヲ以テ買主ニ負擔セシムルハ實ニ奇怪ナルカ如シ然レモ若シ法律自ラニテ(第四百十五條)擔保ニ附シタル義務及ヒ有償契約ニ於ケル其適用(第四百十四條)ニ基クニ於テハ

爰ニ例外ニ屬スル何等ノコナキヲ見ル可シ何トナ
 レハ讓受人ハ其辨濟ス可キ讓受代價ノコニ關セ
 ス相續財産上ノ義務ヲ將テ總テ自己ノ負擔ト爲シ
 其相續財産ニ對スル一切ノ負債ヲ其責ニ歸スルモ
 ノナルカ故ニ管ニ讓渡者ニ其己ニ辨濟シタル所ノ
 モノヲ辨償ス可キノミナラス尙ホ自ラ直チニ相續
 財産ニ對スル權利者ニ對シテ義務ヲ履行シ以テ其
 讓渡者ヲ保護セサル可カラス○是レニ由リ之レヲ
 見レハ則チ若シ讓渡者ニシテ相續財産ニ對スル權
 利者ヨリ出訴セラル、コアルニ於テハ(何トナレハ

右權利者ハ常ニ之レニ對シテ訟求スルノ權利ヲ有
 スルモノナレハナリ)讓渡者ハ其權利者ノ要求ヲ論
 シ且ツ其理由アルキハ之レニ相當ノ權利ヲ與フル
 タメ讓受人ヲ訴訟ニ呼出ス可ク而シテ其自ラ辨濟
 ス可キ裁判言渡ヲ受ケタルノ場合ニ於テハ其辨償
 ノ爲メ讓受人ニ對シテ裁判ヲ求ムルヲ得可シ
 蓋シ賣主ハ其他尙ホ相續財産上ニ爲シタル費用殊
 ニ右財産修補ノ爲メ要シタル費用ノ辨償ヲ受ク可
 シ
 又相續人ハ相續ニ對シテ債主權ヲ有スルコアル可

シ○抑モ此等ノ債主權タル混同ニ因リ消滅スルヲ以テ原則トス其相續人タルノ資格ヲ有スルニ因リ之ヲシテ相續ノ義務ヲ繼續シテ負擔セシメ自己ニ對シテ債主權ヲ有スルヲ能ハサラシムルカ故ナリ(看第五百五十六條)○又之ニ反シ相續人其相續ノ義務者タルキハ自己ニ對シ義務ヲ負フヲ能ハサルヲ以テ其義務亦タ混同ニ因リ消滅スルモノトス○然レモ其相續人タルノ資格ヲ賣渡ス以上ハ自己ノ權利義務ハ少クモ讓渡人トノ其關係ニ付テハ再ヒ發生ス可キモノナリ(第五百五十六條第二項)左ノト第

三ノ人ニ對シテハ再生スルモノニ非ス何トナレハ之レニ相續人タルノ資格ヲ褫奪スルノ原因ハ元ト任意ノモノニシテ相續開始ノ後ニ在レハナリ是ヲ以テ該債主權ヲ擔保スルニ保證又ハ書入質ヲ以テシタルキハ保證人其責ヲ免カレ書入質ハ混同ニ因リ消滅シテ復タ發生スルコトナカル可シ

第七百十條 以上ノ場合ニ於テ「擔保ナク」又ハ「何等ノ擔保モナク」賣買ヲ爲シタル旨ヲ約束シ買主奪取ヲ被フルニ於テハ賣主代價ヲ返還スルノ義務ヲ負フモノトス但シ同時ニ買主奪取ノ危險ヲ知リタルキ

ハ此限ニ在ラス此場合ニ於テハ代價ノ返還ヲモ負
擔スルニ及ハス

買主ノ損耗擔當ニ於テ賣買ヲ爲シタルキハ何レノ
場合ヲ問ハス亦タ之レニ同シ

註解

一、概ニ適用スルニ付担保

第七百十條 上段ニ説明セシ諸條例ハ結約者双方ニ
於テ讓渡權利ノ成存並ニ其無瑕ノ擔保ノ事ニ付キ
合意ヲ爲サ、リシ場合ノ爲メニ設ケタルモノナリ
抑モ此事項ニ於テハ總テ私益ノミニ關スル其他ノ
場合ニ於ケルト等シク双方ノ合意自由ニシテ擔保

ノ事ニ付キ賣主ノ義務ヲ減縮シ増加シ又ハ改様ス
ルコトヲ得ルモノナリ

本條ノ場合ニ於テハ隨分實際ニ行ハル、一个ノ條
約ヲ買主ノ利益トナル様解釋ス可シト認メタリ蓋
シ此條約タル、人ノ或ハ効力ヲ過大ニスル患ナシト
セサルモノナリ○賣主ニ於テ「其擔保ナク賣渡シ」其
何等ノ擔保ヲモ負ハサル旨ヲ約スルハ往々之レア
ル所ナリ○此約權タル之レヲシテ第六百九十五條
ニ開示セル損害賠償ノ種々ノ原因ヲ免カレシムル
モノナレト代價返還ノ義務ヲ免カレシムルニハ足

互に担保ノ物ニ付テハ
買主担保ノ義務アリ
賣主担保ノ義務アリ

ヲサルナリ何トナレハ代價ヲ受取リタルハ無原因
ナリ而ルニ正當ノ原因ナク他人ノ財産ヲ保有ス可
カラサルハ不正ニ加ヘタル損害ヲ賠補スルヨリ一
層自然ノ正義ニ於テ命スル所ナレハナリ蓋シ損害
ヲ加ヘタルハ其過失一時ニ止マルトアリト雖モ
正當ノ利得ヲ爲シタルハ返還ナキ以上ハ不正繼
續スレハナリ

代價受取ル
場合

然レ凡二个ノ場合ニ於テハ賣主奪取擔保ノ際代價
返還ノ義務スラ猶ホ之レヲ負擔セス(第一)ノ場合ハ
無擔保ノ約束ニ加フルニ買主奪取ノ危害ヲ知リシ

情狀ヲ以テスルハ是ナリ是レ單ニ他人ノ權利ナラ
シカトノ疑念ヲ抱キタルノ義ナリト爲ス可カラズ
全ク他人ノ權利ナルヲ知リタルノ謂ニシテ前段
ニ我輩カ屢々買主ノ惡意ト稱シタル所ノモノナリ

(第二)「買主ハ損耗擔當ト定メテ賣買契約ヲ爲セシ

佛蘭西ニ於テハ買主ノ損耗擔當ノ約條ノ外ニ尙ホ
無擔保ノ約權アルヲ要スルヤ否ニ付キ爭論スル者
アリ然レトモ概シテ右ノ約條ノミヲ以テ充分ナリ
ト決定セリ蓋シ該約條ハ賣買ニ偶然契約ノ性質ヲ

附與スレハナリ(第三百二十二條ヲ看ヨ)○日本ニ於テハ斯ノ如キ問題ノ生スルコトナカル可シ何トナレハ法文ニ「何レノ場合ニ於テモ」云々ト掲ケテ買主ノ損毛擔當ノ約條ハ賣主ヲシテ代價ノ返還ヲ免カレシメタレハナリ是レ蓋シ無擔保ノ約權ヲ無益ナラシメ且買主ノ方ニ他人ノ權利ヲ知了スルトセサルコトヲ探究スルニ及ハサラシム

茲ニ吾人ノ從事スル種々ノ場合ニ於テハ賣主善意ナリシヤ又ハ惡意ナリシヤヲ探求スルニ及ハサルコトヲ注視ス可シ故ニ賣主善意ナルモ毫モ特別ナル

約條ナキ片ハ奪取ノ場合ニ於テ代價ヲ返還シ且總テノ賠償ヲ拂フ可キ義務ヲ免カル、コトナシ蓋シ常ニ其過失アルヲ以テナリ之ト同シク賣主惡意ナルモ右二種ノ義務ヲ免カレンカ爲メ賣買契約ニ加ヘタル約條ノ利益ヲ失ハサル可シ何トナレハ斯ル約條ハ買主ニ對シテ生ス可キ危險アル可キコトヲ充分之レニ知ラシムルノミナラス其約條ノ設ケアルキハ代價ニ影響ヲ及ホシテ甚ク少額ナリシコト明カナル可ケレハナリ

第七百十一條 前條々ノ外尙ホ奪取擔保及ヒ之ヲ改

様スルヲ得ル特別ノ合意ニ關スル規則ハ第四百十五條乃至第四百二十條ニ設定シアルモノトス

第七百十二條 賣主ニ於テ買主ノ惡意ヲ論據トシテ買主ノ受ケタル物件奪取ヨリ生セシ擔保義務ノ全部又ハ一部ヲ免カル可キモノト唱フルキハ第三ノ人ノ利益ニ存スル書入質ノ記入又ハ所有權移轉ノ登記アリト雖モ賣主ヲシテ買主其第三ノ人ノ權利アルヲ知リ居タル直接ノ證據ヲ供スルノ責メヲ免カラシメサル可シ

註解

第七百十一條及ヒ第七百十二條 斯ル重要ナル論理ヲ完全ナラシメンカ爲メ法律ハ擔保ノ總則ニ關シタリ蓋シ其總則ハ諸般ノ契約及ヒ殊更要償ノ名義ニ於ケル契約ニ普通ノモノタルカ爲メ既ニ之ヲ揭示セル所ナリ即チ第四百十七條ハ賣買ニ關スル特別規則ニ讓送シタリト雖モ賣買事項ノ數多ノ箇條中其一箇條ヲ以テ擔保ノ總則ニ關セシムルハ至當ノトト謂ツ可シ

是等ノ規則中ニ總テ前條ノ論決ヲ變更スルヲアル可キヲ以テ特更注視ヲ要スル一箇ノ規則アリ即チ

讓渡者ハ何等ノ約條又ハ約權アルモ之レカ爲メ「自己ノ所爲ヨリ生シタル」ニ付キ奪取ノ擔保ヲ免カ
ル、ヲ得サル是ナリ

故ニ不動産ノ賣主奪取ノ場合ニ於テハ「何等ノ擔保」
ノ義務ヲモ負擔セサル可シト約權シ又ハ「買主ノ損
毛擔當」ト定メテ賣買ヲ爲シタリ而シテ善意ノ第三
ノ人ニ向テ更ニ賣買センカ爲メ買主ノ最初ノ賣買
ノ登記ヲ怠リタル「」ニ付キ利得スルニ至ル可シ何
トナレハ此善意ノ第三ノ人ニ於テ「登記セサル賣買
ハ第三ノ人ニ對抗セラレサル可シ」(第三百七十條)ト

ノ原則ニ據リ最初ノ買主ノ權利ヲ奪取ス可シ而シ
斯ノ如ク賣主一身上ノ所爲ニ因リ奪取ヲ受ケタル
買主ハ自己ノ完全ナル權利ヲ以テ代價ノ返還ニ付
テモ亦損害賠償ニ付テモ擔保ニ於ケル訟求權ヲ有
スルモノトス

賣主一身上ノ所爲ハ茲ニ掲クルカ如キ擔保ナク行
ハレタル賣買以後ニ生スル代リニ其以前ニ生セシ
「」モ亦其論決ニ異ナル所ナカル可シ○例ハ初メ
ノ不動産ノ賣買ニハ何等ノ特別ノ約權ヲ設ケス即
チ通常ノ條件ニテ執行セラレ且直チニ登記セラレ

タトリセシ、爾後其賣主ハ「擔保ナク」又ハ「新買主ノ損
毛擔當」ト定メテ右同一ノ不動産ヲ此新買主ニ賣渡
シタリトセン然ルニ此買主ハ餘リ賣主ヲ信シタル
ニ據リ前以テ登記目錄ヲ出發セシメサリキ故ニ奪
取ヲ受ク可キハ當然ナリ然レトモ擔保ニ於ケル認
求ヲ爲スハ全ク其權内ニ在ル所ナリ何トナレハ其
買主ノ受ケタル奪取ハ賣主一身上ノ所爲ヨリ生ス
可キ當然ノ結果ニ外ナケレハナリ○斯ル論決ハ明
カニ公義ノ然ラシムルモノトス而シテ茲ニハ賣主ノ
惡意即チ他人ノ權利ノ存在ヲ知了スルトヨリ更ニ

甚タシキモノアリ蓋シ賣主自カラ右ノ權利ヲ他人
ニ附與セシモノニシテ買主ノ受ケル奪取ノ原由ヲ
構造セシ者モ亦此賣主ナレハナリ

此第二ノ設例ニ就キ一箇ノ區別ヲ爲サ、ル可カラ
ス、茲ニハ奪取ノ原由ハ賣買前ニ在リテ第二ノ買主
ハ之レヲ知了スルヲ得ルモノナレハ(第一ノ設例
ニ於テハ斯ノ如キヲナシ)乃チ買主奪取ノ危險ヲ知
ルヲハ唯之レニ代價返還ニ係ル權利ヲ委附スルノ
ミニシテ損害賠償ノ權利ハ之ヲ失ハシム可キヤ如
何ト問フ者アル可シ○吾人ニ於テハ然リト答フル

ニ付キ躊躇セサル可シ何トナレハ此事項ノ最初ノ
 條例ニ損害賠償ハ善惡ノ買主ノミニ附與セラル可
 シト揭ケタレハナリ(第六百九十五條)而ノ吾人ハ奪
 取ノ危険ヲ知了スル買主ヲ以テ惡意ノ買主ト見做
 ス可シ

吾人ノ暗ニ指定シ來リシ不動産移轉ノ公示方法ハ
 吾人ヲシテ一箇ノ問題ヲ調査スルトニ至ラシメタ
 リ而シテ此問題ハ日本ニ於テハ微妙細密ナルモノニ
 シテ佛蘭西ニ於テモ亦然ラシムルヲ得ス蓋シ登記
 ノ論理ニ異ナルトナケレハナリ

吾人ハ往々買主ノ善意ナルト即チ賣渡サレタル物
 件上ニ存スル第三ノ人ノ權利ヲ知ラサルトチ陳述
 セリ○然ラハ則チ不動産ノ讓渡ヲ公示ニ付シタル
 制法ニ於テ買主ニ奪取ヲ受ケシメタル權利ヲ公示
 セル以上ハ其買主ヲ以テ善意ナリト稱スルトヲ得
 ルヤト難問スル者アル可シ○又此買主ニ對シテ何
 故右ノ權利ヲ知了セサルヤ其之ヲ知了セサルハ自
 己ノ過失タル可シト難スルトヲ得ルヤ如何
 吾人ハ斯ル嚴格ヲ以テ買主ヲ取扱フ可シト信セス
 右ノ論決タル買主ト登記ヲ爲セシ第三ノ人トノ關

係ニ基ツクキハ甚タ正當ナルヲ論ヲ俟タスシテ明
 カナリ蓋シ買主ノ善意ハ其過失ヲ免カレシメサル
 ノミナラス毫モ過失ナキ第三ノ人ニ對抗セラル可
 キモノニ非サレハナリ○然レトモ茲ニハ買主ト其
 賣主トノ關係ニ就テ陳述スルモノナレハ買主ニ於
 テハ何故ニ登記目錄ヲ調査セサルヤト其怠慢ヲ以
 テ之ヲ非難スルノ權利ヲ賣主ニ許スヲ得ス何ト
 ナレハ該賣主ハ公示セラレタル權利ヲ知ラサルノ
 過失又ハ之ヲ知リシニ拘ラスシテ賣渡セシ最モ重
 大ナル過失アルモノナレハナリ

今ヤ爰ニ舉証ノ義務ハ何人ニ屬スルモノナルヤヲ
 知ルノトアリテ存スルノミ○買主ニ於テ其善意ナ
 リシトテ証ス可キモノナルヤ○賣主ニ於テ其買主
 ノ惡意ナリシトテ証ス可キモノナルヤ
 是レ即チ惡意ハ決シテ推測ヲ以テ定ム可キモノニ
 アラストノ法律及ヒ正理ノ普通原則ニ基ク可キモ
 ノナル可シ(日本草案第九十九條佛蘭西民法第二
 千二百六十八條)○是ヲ以テ爰ニテモ他ノ場合ニ於
 ケルカ如ク右普通原則ヲ適用スルハ實ニ當然ノト
 ト云フ可シ○尤モ右ニ關シ疑ヒアル可キ只一個ノ

理由トハ登記簿ハ公ケナルカ左ナクモ何人タリトモ些少ノ手数料ヲ拂フテ右登記ノ拔萃書ヲ請求スルヲ得ル様ニ爲シ置ク可シトノヲ即チ是レナリ(第三百六十九條)然レモ吾人ハ尙ホ爰ニ再説ス可シ即チ已上ノ事タル己ニ爲シアル登記ノ確知アリ又ハ之レヲ知ラサリシ過失アリトノ推測ニシテ其權利ヲ登記セシ第三ノ人ノ利益ノ爲メニモセシモノタルニ過キサルナリ

其レ然リ故ニ已上ノ場合ニ於テ買主ハ其賣主トノ關係ニ於テハ其登記アルヲ知ラサリシ旨ヲ主張シ

又ハ確言スルヲ以テ足レリト爲ス○且ツ其他買主ノ利益ノ爲メ事實上ノ推測アリテ存ス可ク即チ右推測トハ買主カ第三ノ人ノ制規ニ從フテ確定シタル權利ヲ有スル地所ヲ買受クルトハ實事ナラサルカ如シトノヲ即チ是レナリ○然レモ賣主ハ通常ノ證據ヲ以テ殊ニ買主カ登記簿ノ保有者ニ現存登記目錄ヲ請求シ且ツ之ヲ得タルヲ證シ又ハ買主ニ於テ一又ハ他ノ原由ヲ以テ第三ノ人ノ取戻請求ヲ避タルヲ得サル證人ヲ出シ已上ノ主張及ヒ推測ヲ抗爭スルヲ得可キナリ

蓋シ日本ニ於テハ右論決ニ疑ハシキ所ナカラシメ
 シカ爲メ草案第七百十二條ニテ明瞭ニ之ヲ示シタ
 リ且ツ該條ニ於テ法律ハ記入及ヒ登記ノ効力ナカ
 ル可キヲテ説カサリシヲ見ル可シ何トナレハ該
 條ニ於テハ買主ノ惡意ナリシヲ證スルニハ記入
 及ヒ登記ノミニテハ足ラサルヲテ説キタルノミナ
 レハナリ

己ニ第四百十五條第二項ニ於テ擔保ニハ概シテ二
 個ノ目的アルヲ見タリ即チ第三ノ人ノ故障又ハ
 主張ニ對シテ讓受人ヲ防キ又ハ保護スルヲ又其故

障又ハ奪取ノ防遏ス可カラサル場合ニ右讓受人ニ
 賠償ヲ拂フノ一是ナリ

蓋シ本節ニ掲載スル所ノ各條ハ只賠償ノ一ニノミ
 關シテ説キタルモノニシテ讓受人ヲ保護スルノ義
 務ニ至リテハ民法ノ基本ニ關スルヨリハ寧ロ訴訟
 法ノ範圍ニ屬スルモノナリ是レ爰ニ讓受人ノ其
 保人ヲシテ訴訟ニ參加セシムルハ如何ナル方法ニ
 依ルカ又右擔保人ハ被擔保人即チ讓受人訴訟ノ事
 實及ヒ其原因ニ付キ如何ニ之レニ應スルヤノ一ヲ
 見サル所以ニシテ第四百十九條ハ己ニ訴訟法ニ右

事項ノ送リヲ爲セリ
爰ニハ擔保者ノ第二ノ義務ハ可分ナルモ其第一ノ
義務即チ擔保ノ爲メ訴訟ニ參加スルノ義務ハ不可
分ノモノナルコトヲ注意セサル可ラス○己上二個義
務間ノ差異ニ至リテハ業ニ己ニ論シタル所ナリ(第
二冊四百六十六葉)

是レニ由リテ之ヲ見レハ則チ若シ許多ノ賣主アル
ルハ各賣主ハ恰モ一人ナルカ如ク擔保全部ノ爲メ
訴訟ニ參加ス可キモノナルコトヲ了解シ得可シ故ニ
其一部分ノ爲メ訴訟ニ參加スルヲ得ス又其一部分

ノ爲メ第三ノ人ノ權利ヲ論争スルヲ得サル可シ然
ラサレハ則チ前述最後ノ場合ニ於テ賣渡シ物件ノ
一部分上ニ第三ノ人ノ權利ヲ認知スルニ於テハ是
レ部分奪取ノ場合ニシテ是レ亦タ常ニ奪取ナル可
キナリ○且ツ又未分ノ許多ノ買主アリ即チ各買主
ハ共同所有者タル可キノ場合ニハ右買主ハ各全部
ノ爲メ賣主ヲシテ擔保ノ爲メ訴訟ニ參加セシムル
ヲ得可ク又其賣主ノ本人ナキノ場合ニハ同シク全
部ノ爲メ其各相續人ヲシテ訴訟ニ參加セシムルヲ
得可キナリ

然レ凡若シ第三ノ人ノ權利ニシテ認知セララル、ニ於テハ前述賠償ニ關シテ擔保人ノ裁判宣告ニテ負擔シタル其擔保義務ハ是等ノ間ニ分割ス可キモノトス何トナレハ右ノ義務タル其性質上分割シ得可キモノニシテ其之ヲ爲スニ毫モ差支ナキモノナレハナリ

第三節 買主ノ義務

第七百十三條 買主ハ代價ノ辨濟ヲ之カ爲メ合意シタル時日ニ爲スヘシ若シ又其特別ノ合意ナキハ物件引渡ノ時ニ之ヲ辨濟スヘシ

物件引渡ヲ後日ニ爲ス可キ合意ハ雙方ノ意思ニ從ヒ代價ノ辨濟ヲモ後日ニ爲ス可キヲ暗ニ約シタルモノト思量スヘシ
若シ又賣主ニ於テ裁判所ヨリ物件引渡ノ爲メ恩惠ノ猶豫期限ヲ得タルハ買主モ亦タ代價辨濟ノ爲メ同一ノ期限ヲ有スルモノトス

第七百十四條 合意ナキハ代價ノ辨濟ハ有形ノ動產物賣買ニ關シテハ其物件ノ引渡ヲ實行スル場所ニ於テ之ヲ爲ス可シ又不動産債主權爭訟中ノ權利若クハ相續權ノ賣買ニ關シテハ其權證交付ノ場所ニ於テ右代價

ノ辨濟ヲ爲ス可シ
若シ又代價ノ辨濟ハ物件引渡前又ハ其後ニ於テ請
求シ得可キモノナルキハ買主ノ住居ニ於テ其辨濟
ヲ爲ス可キモノトス

註解

第七百十三條 抑モ買主ノ義務ハ數多アルモノニ非
ラス買主ハ唯々約束シタル代價ヲ辨濟スヘキノミ
時宜ニ依リ利息ヲ拂フコトアルモ代價ノ附從タルニ
過キス然レモ引渡ヲ受クルノ義務モ亦其一ト爲
ス可キナリ何ントナレハ引渡ハ買主ノ爲メニハ權

代價未納ノ義務

引渡ノ義務

利ナレモ亦タ其義務ナレハナリ又賣買契約ノ特殊
ノ條約ニ因リ特別ノ義務ヲ負擔シタルキハ之ヲ履
行セサル可カラズ所謂「買戻」ノ條約即チ是ナリ此條
約タル定期内賣主代價ト利息トヲ返還スルキハ賣
主ニ物件ヲ返還セシムルモノナリ
第七百十三條ハ單リ代價元金ノ辨濟ノミヲ規定ス
ルモノナリ

買戻ノ義務

既ニ賣主ノ義務ノ事項ニ於テ引渡ト代價辨濟トノ
間ニハ緻密ナル關係アルコトヲ述ヘタリ○左レハ賣
買ノ單純ナルモハ契約成立ノ後直チニ此兩義務ヲ

ニハ裁判所ヨリ許與シタル猶豫期限ニ同一ノ條規ヲ適用セリ

此區別タル能ク道理ニ適フモノナリ蓋シ賣主代價辨濟ノ爲メ買主ニ猶豫ヲ與ヘタルモハ代價ノ利息ヲ受クヘキニ因リ(次條ヲ看ヨ)辨濟前ニ引渡ヲ爲スモ敢テ損害ヲ受クルコトナシ而シテ其抵保ノ一ナル留置權ハ之ヲ失フト雖モ尙ホ其他二个ノ抵保即チ賣主ノ先取特權並ニ解除ノ權ヲ有ス之ニ反シ若シ買主引渡ノ爲メ猶豫ヲ與ヘタルニ拘ハラズ直ニ辨濟ス可キモハ賣渡物件ノ收益ナクシテ代價ノ收益ヲ

失フヘク至當ノコトニ非ラサル可キナリ
斯クノ如キ結果ハ未タ全ク禁止セラレタルニ非ラズト雖モ其双方ノ意思ナリシコト明白ナルモミニ限ルヘク又何レノ場合ト雖モ裁判所ノ許與シタル猶豫期限ノ場合ニ於テハ双方ノ作爲ニ出テサルヲ以テ該結果ヲ來スヲ許可セサルモノトス

第七百十四條本條ハ代價辨濟ノ場所ノ事ヲ規定スルモノナリ

既ニ第四百八十九條ニ於テ一般ニ辨濟ノ場所ヲ規定シ辨濟ハ義務者ノ住所ニ於テ爲スヘキモノナル

旨ヲ記シタリ然レモ或ル契約ノ事ニ付キ後ニ記ス
ヘキ所ハ之ヲ貯存シタリ

其例トハ即チ賣買契約ノ際ニ於テ存スルモノナ
リ蓋シ引渡ト同時ニ辨濟ヲ行フハ引渡ヲ實行ス
ル所ノ場所ニ於テ辨濟ヲ爲スヘク又若シ引渡ノ前
後ニ於テ辨濟ヲ請求スヘキハ普通法ニ依遵シ義
務者ノ住所ニテ辨濟ヲ爲スヘシ辨濟ヲ引渡前ニ於
テ請求スルヲ得ルハ稀ナル所ニシテ其後ニ於テ請
求スヘキハ一層多シトス○有形ノ動產物ト不動產
又ハ無形物トノ間ニ法律カ區別ヲ爲シタルハ能ク

其例トハ即チ賣買契約ノ際ニ於テ存スルモノナ
リ蓋シ引渡ト同時ニ辨濟ヲ行フハ引渡ヲ實行ス
ル所ノ場所ニ於テ辨濟ヲ爲スヘク又若シ引渡ノ前
後ニ於テ辨濟ヲ請求スヘキハ普通法ニ依遵シ義
務者ノ住所ニテ辨濟ヲ爲スヘシ辨濟ヲ引渡前ニ於
テ請求スルヲ得ルハ稀ナル所ニシテ其後ニ於テ請
求スヘキハ一層多シトス○有形ノ動產物ト不動產
又ハ無形物トノ間ニ法律カ區別ヲ爲シタルハ能ク

有形ノ動產ト不動產トノ間ニ法律カ區別ヲ爲シタルハ能ク

道理ニ適フモノナリ引渡ニ因リ自カラ權證ノ交付
ヲ來スルハ權證及ヒ代價ノ交換同一ノ場所ニ於テ
實行セラルヘキヤ當然ナリ

第七百十五條 賣渡シタル物件ハ果實又ハ其他金圓

ニ見積リ得ヘキ利益ヲ生スルモノナルハ買主其
物件引渡ノ時ヨリ當然代價ノ利息ヲ負擔スヘシ之
ニ反スル場合ニ於テハ特別ノ合意ニ據ルカ又ハ代
價ヲ辨濟スヘキノ督促ヲ受ケタル上ニアラサレハ
利息ヲ負擔セサルモノトス

註解

第七百十五條 凡ソ請求シ得ヘキ元金ノ負債主タル
ノミニテハ其利息ヲ負擔スルモノニ非ラス概シテ
特殊ノ合意又ハ裁判所ニ於ケル訟求アルヲ要ス唯
タ或ル場合ニ於テハ例外トシテ當然利息ヲ生セシ
メ又或ル他ノ場合ニ於テハ單純ノ督促ヲ以テ足レ
リトス(第四百十三條ヲ看ヨ)

利息發生するの普通債
の例外

茲ニ右ノ例外ノ適用アリ
(第一) 引渡ヲ爲シ而シテ賣渡物件果實ヲ生スルハ
合意ナク裁判所ヘノ訟求ナク又督促ナク當然賣買
代價ノ利息ヲ拂ハシム此場合ニ於テハ最モ單純ナ

ル公義ニ據ルモ買主其收得シタル果實ノ相當物ヲ
辨濟スルヲ要ス而シテ果實ナル語ヲ狹隘ニ過クルノ
意義ニ解セサランカ爲メ物件カ買主ニ生ス可キ其
他ノ利益カ金圓ニ見積リ得ヘキトハ之ヲモ併セテ
同一ノ位地ニ置ケリ○例ヘハ買主自カラ居住シタ
ル居宅ノ家屋ノ場合ノ如シ蓋シ共家賃ニ付キ實得
シタル經財ハ金額上ノ利益ナルヤ明カナレハナリ
○買主ノ自用シタル馬、車若クハ其他ノ動產物ニシ
テ買求メサレハ借賃ヲ要スヘカリシモノニ付テモ
亦同シ

市内ニ存スル土地ニシテ未タ之ニ建築ヲ爲サス又
 耕業ヲモ爲サ、レトモ近日建物ヲ設置ス可キ様ニ
 定メラレタル土地ニ關スルハ該土地ハ金錢ニ評
 價ス可キ利益ヲ生スルモノナリト云フコト能ハサル
 可シ但シ買主材料貯存ノ爲メニ其土地ノ賃借ヲ爲
 スコトヲ得ル者ナリト主張スルハ此限ニ在ラスト
 雖此是レ蓋シ殆ント過度ノ論理ト謂ツ可シ又爾後
 買主ノ費用ヲ以テ其土地ニ建築シタルノ景狀ハ利
 足ノ辨濟ノ証據立ルモノニ非ス何トナレハ是レ其
 賣買品ヨリ引致シタル直接ノ利益ニ非サル可ケレ

ハナリ

(第二) 是等數種ノ場合ニ於テ若シ利足カ當然生セ
 サルハ賣主督促ノ方法ヲ以テ之ヲ生セシムルコ
 容易ナリ又賣主ハ物件引渡ノ際ニ利足ヲ約權スル
 コトヲ得可シ

此約權ハ買主ニモ有益ナルコトアル可シ何トナレハ
 此約權ハ賣買ヨリシテ買主ニ得セシメタル利益ノ
 少ナキニ從ヒ充分低價ノ利息ニ減少スルコトヲ得レ
 ハナリ然ルニ催促ニ據リテ負擔ス可キ利息ハ法律
 上ノ制限利子タル可シ

上ニ掲ケタル諸條例ハ物件ノ引渡アリタル場合ノ爲メニ設定セシモノナリ然レトモ其物件カ眞ノ果實ヲ生スル片ハ假令ヒ物件ノ引渡ナキ場合ト雖モ亦之ニ適用スルコトヲ得可シ何トナレハ此果實ハ物件引渡ハ際買主ニ返還セサル可カラサルモノナレハナリ此場合ニ於テモ亦買主ニ利息ヲ拂ハシムルノ理由アルモノニシテ其理由ハ前ノ場合ニ於ケルト同一ナリ而シテ其利息ハ賣買ノ日ヨリ計算ス可キモノト知ル可シ

第七百十六條 若シ買主カ所有權取戻ノ訴ニ依リ又

ハ其他總テ物上訴權ニ因リ妨害ヲ受ケ又ハ妨害セラレンコトヲ恐ル可キ正當ノ事由ヲ有スル片ハ賣主ニ於テ其妨害又ハ危險ヲ止息セシムルニ至ル迄若クハ買主物件ノ奪取ヲ受ル場合ニ於テハ賣主受預スル代價ヲ返還スヘキ保証人ヲ買主ニ附與スル迄買主ハ右妨害訴權ノ輕重ニ從ヒ其代價ノ全部又ハ一部ノ辨濟ヲ拒絕スルコトヲ得^{但シ右代價辨濟ヲ拒絕權ハ買主ニ於テ其物件ノ他人ニ屬スルモノナルコトヲ證明シテ賣買ノ無効ヲ訟求シ及ヒ擔保ニ於ケル訴權ヲ執行スルノ權ヲ妨ケサルモノト}

ス

註解

第七百十六條 本條ノ條例ハ佛蘭西法典第千六百五十三條ノ條例ニ照應シ且其條例ヲ完全ナラシムルモノナリ

吾人ハ擔保ノ事項ノ始メニ於テ買主擔保ニ付キ權利ヲ有スルカ爲メニハ所有權取戻ノ訴ノ勝利ヲ得タルニ依リ奪取ノ成就セシトテ必要トセスシテ唯買主ハ賣買物件カ賣主ニ屬セサリシモノナルコト隨テ其物件ハ自己ノ所有品トナラサリシトテ證明

買主ハ賣買物件カ賣主ニ屬セサリシモノナルコト隨テ其物件ハ自己ノ所有品トナラサリシトテ證明

スルヲ以テ足レリトスト陳述セリ○之レニ反シテ本條ノ暗ニ指示スル所ハ即チ賣買ノ無効ヲ申告シ且擔保ニ於ケル訴ヲ執行スルニ付キ買主所有權取戻ノ訴ヲ受クルコトヲ以テ足レリトセスト是ナリ○蓋シ買主第三ノ人ト共謀シテ其満足セサルカ又ハ其義務ノ重キニ過キタル賣買ノ効力ヲ避ケンカ爲メカ恐クハ又其買受物件代價辨濟ノ爲メニ必要ナル資金ヲ求ムルノ時日ヲ得ントノ目的ハミテ以テ第三ノ人ヲシテ己レニ對シ買受物件取戻ノ請求ヲ出訴セシムルコトアル可シ此場合ニ於テ右詐害ハ固

ヨリ之ヲ打破セサル可ラス然ルニ縱令ヒ己上ノ誦
謀カ其實取戻請求者ト共ニ存立セサルモノナリト
雖其訴訟ノ基礎ハ極メテ軟弱ナルモノニシテ只
賣主ノ其契約ニテ期圖シタル利益ヲ奪却スルヲ以
テ足レリトスルハ實ニ取戻請求者ノ爲メ不幸ノコ
ト云フ可キナリ

賣買カ他人ノ物件ニ關シタルモノトテ無効ト爲リ
且ツ買主カ其代價ノ辨濟ヲ免レタル上ニ尙ホ右賣
買ノ無効ヨリ生シタル損害ノ賠償ヲ受クル爲メニ
ハ賣主ノ其讓渡セント主張セシ權利ヲ有セサルコ

ニ付キ直接ノ證據ヲ要ス可シ然ルニ該證據タル第
三ノ人ノ取戻請求ナキモ賣主ニ對シテ之ヲ提出ス
ルヲ得可ク而シテ右戻取請求ノコト雖其裁判宣
告ヲ以テ勝訴ト爲ラサル内ハ第三ノ人ノ右取戻訴
訟ヲ實行シタルノミニテハ未タ證據ト爲スニ足ラ
サルナリ

然レニ第三ノ人ヨリ買主ニ對シテ取戻訴訟ヲ起シ
タルノ事實ハ全ク無關係ノコトニハアラサル可シ何
トナレハ法律ハ前ニ指示セシ誦謀ヲモ取戻請求者
ノ甚シキ大膽ヲモ推測ス可ラサルヲ以テ此取戻訴

ウシカ事加物不代
金并偏ノ程海ヨリ
得由ト云

訟ノ事實中ニハ買主カ奪取ノ危険ノ遠カルノ日ニ
至ル迄其代價辨濟ノ爲メ猶豫ヲ請求スルニ充分ノ
理由アル可ケレハナリ

買主中ト其代價辨濟ノ程
供スルハ買主ヲ要スルナリ

又他ノ一方ニテ取戻訴訟ノ審判ハ多少延滞ス可キ
モノナルカ故ニ賣主ハ奪取アルノ場合ニ於テ其受
取リタル代價返還ノコトニ付キ保証人ヲ提供シ代價
ノ現辨濟ヲ受クルヲ得可シ

然ニ賣主ハ縱令ヒ其戻取請求ニテ勝訴ト爲ルニ
確實ナルキト雖ヒ其身代惡キノ故ヲ以テ保証人ヲ
提供スル能ハサルコトアル可シ(則チ身代ノ惡シキカ

保物中ト其代價辨濟ノ程

故ニ其資産ヲ賣渡スニ至リタルナリ)即チ此場合ニ
於テ賣主カ賣渡物件モ其代價モ共ニ失フノ危険ニ
陷ルハ實ニ之レカ爲メ不幸ノコト云フ可シ是レ蓋
シ賣主カ第四卷ニ説ク可キ賣主ノ資格ニ附着シタ
ル其先取特權保存ノ爲メ必要ナル法式ヲ履行セサ
ルノ場合ニ生ス可キナリ即チ已上ノ場合ニ於テ法
律ハ賣主ノ第七百十八條ニ指示シタル法式ニ從ヒ
代價ノ附託ヲ要求スルコトヲ許可セリ
法律ハ爰ニ佛蘭西法第千六百五十三條ニ於テ豫定
シ置カハ良カラント思意スル買主ノ權利ヲ論シ以

テ本條ヲ終ラントス即チ若シ買主カ奪取ノ危険アル可シトノ推測ニテ取戻訴訟ヲ起スノミニ止マラス尙ホ物件ハ賣主ニ屬セサルモノナリトノ直接ノ證據ヲ提供シ得ル片ハ買主ハ其賣買ノ全然無効ナルヲ請求スルノ權利ヲ有ス可ク即チ此場合ニ於テ買主ハ代價辨濟ノ猶豫ヲ要求セス斷然其辨濟ヲ拒絕シ且ツ其賣買擔保ヨリ生シタル賠償ヲ要求ス可キナリ

尙ホ本條ニテ法律ハ只取戻訴訟ノミヲ假想セス(其他一切ノ物上訴權)ヲ假想セシテ見ル可シ即チ右訴權ハ第三ノ人カ所有權ノ支分權ヲ認知セシメンカ爲メ主張スル所ノ訴權ニシテ入額所得權、賃貸權、長期賃貸權、地役ノ如キ即チ是レナリ又右訴權ハ權利者カ賣渡サレタル地所上ニ書入質ヲ有スルヲ以テ右不動産ノ引渡又ハ其貸金ノ辨濟ヲ受ケント主張スル所ノ書入質ノ訴權タルヲアル可キナリ蓋シ右等ノ訴權タル總テ同一ノ勢力ヲ有セサルモノナルカ故ニ從テ其代價辨濟ノ拒絕ニ附ス可キ理由ニ至リテモ亦均一ナルヲ能ハス例ヘハ賣渡サレタル物件上ニ書入質アル債主權アリテ存スルモノ

トセシテ手右債主權ハ固ヨリ代價ノ辨濟ヨリ後チナ
ラサル可ラス且ツ其他多少不動産ノ價額ヲ減ス可
キ地役ニ關シ又ハ只不動産ノ一部分ノミニ存スル
カ又ハ其殘餘ノ繼續時限ノ短縮ナル賃貸權ニ關ス
ルコトアル可シ此等ノ場合ニ於テ買主ハ其代價ノ一
部分ノミニ付テニアラサレハ辨濟ノ猶豫若シクハ
保證人ヲ請求スルヲ得サル可シ

蓋シ佛蘭西法ニテハ右曖昧ナル點ノ説明ヲ忽ニシ
タレハ同法ニテ此欠點ヲ補足スルハ常ニ至難ノコ
トス然レモ買主ニシテ只地役ノ要求ノミノ逼迫ヲ

受ケタル場合ニ於テ買主ニ全代價辨濟ノ拒絕ヲ認
許スルハ實ニ至難ノコト云フ可キナリ

第七百十七條 若シ賣渡シタル不動産上ニ書入質又

ハ先取特權ノ記入アルキハ買主ハ右書入質又ハ先
取特權滌除ノ法式ヲ履行シタル後ニアラサレハ其
代價ヲ辨濟スルニ及ハス但シ制規ノ期限内ニ其滌
除ヲ行フコトヲ要ス

註解

第七百十七條 本條ニ豫定シタル地位ハ前條豫定シ
タル所ト異ナリ何トナレハ爰ニハ己ニ起シタル訴

訟アリテ存スルコトナク將來ニ書入質ノ訴訟ノ起ル
 可キヲ恐ル、ニ正當ノ理由アリテ存スルコト見ル
 可ケレハナリ然レモ此事タル殊ニ法律ノ條項ノ同
 一ナラサルヨリ生スルコトナル可シ故ニ爰ニテ買
 主ハ縱令ヒ賣主カ保證人ヲ與エタル時ト雖モ其代
 價ヲ辨濟スルニ及ハス買主ハ滌除ノ法式ヲ履行ス
 ルノ日迄ハ代價辨濟ノ爲メ法律上ノ猶豫ヲ得可キ
 ナリ

己ニ右法式ノ目的ハ不動産ノ獲得者タル第三ノ人
 ニ其不動産ノ負フタル書入質ヲ洗除スルヲ許可ス
 ルニアリトノコトヲ説キタリシ(第二冊百九十四及ヒ

五百九十八葉參觀)

蓋シ書入質ヲ有スル權利者ノ將來ノ訴求ヲ免レン
 ト欲スル不動産ノ獲得者ハ其權利者間ニ存スル優
 等權ノ順位ニ從ヒ辨濟ヲ爲スノ準備シタリトノ明
 言ヲ以テ其獲得代價ヲ是等ニ提供セサル可ラス然
 レモ若シ權利者カ之ヲ承認セシキハ縱令ヒ總テノ
 權利者ニ辨濟スルニ足ラサルモト雖モ不動産ハ右
 ノ辨濟アリタルノ故ヲ以テ其書入質ノ義務ヲ免ル
 可ク若シ又權利者ニ於テ辨濟ヲ受クル爲メ代價カ

不充分ナリト認ムルキハ該權利者ハ右不動産ノ公賣ヲ要求スルヲ得可キナリ
 此再賣買ニ因リテ得タル代價ハ權利者ニ分配シ而
 ノ其不動産ハ一切ノ書入質加之代價ノ不足セル所
 ノモノニ至ルマテ舉ク之ヲ滌除セラル可シ
 總テ其手續ハ民法第四編カ又ハ訴訟法中ニ規定セ
 ラル可シ(佛民法第二千八百八十一條以下ヲ對照セヨ)
 是ヲ以テ一个ノ不動産ノ買主ハ賣主ニ其代價ヲ辨
 濟スルハ義務ナキヲ會得ス可シ何ントナレハ書入
 質權利者ハ此代價ニ付キ優等權ヲ有スレハナリ

又他ノ一方ヨリ之ヲ觀レハ不動産上ニ先取特權又
 ハ書入質ノ記入アリト稱シテ買主カ限りナク辨濟
 ヲ遅延ス可カラズ法律ノ定メタル期限内ニ滌除ヲ
 行ハサル可カラズ

此點ヨリ觀察テ下セハ第三ノ所持人率先手續ヲ爲
 スニ及ハス權利者ヨリ辨濟又ハ物件ヲ引渡スヘキ
 ノ督促ヲ受クルヲ俟ツヲ得ルトノ佛法典ハ之ヲ
 變更スルヲ必要ナルヘシ(第二千八百八十三條)蓋シ第
 三ノ所持人ハ權利者ノ出訴前ニテモ猶ホ滌除スル
 ヲ強ラル、テ可トス賣主ヨリ自身之ニ辨濟又ハ滌

除スヘキノ督促ヲ爲スノミニテ充分ナリ
此期限タル臨時ノ事件現出セサルハ三月又ハ四
月タルニ過キサルヲ得然レハ此事項程爭論ヲ生ス
ルヲ多キモノナキカ故ニ裁判所ニ於テ其爭論ヲ斷
定スルノ必要アルハ爲メニ長ク此手續ヲ遷延ス
ルヲアリ

第七百十八條 前二條ニ豫定セル場合ニ於テ賣主ノ
先取特權ノ保存並ニ第三ノ人ニ對スル其賣買解除
權ニ必要ナル法式ヲ遵奉シテ賣主ハ買主ニ於
テ即時ニ賣主買主雙方ノ名義ヲ以テ代價ヲ附託役

所ニ寄託シ相互ノ承諾ニ據ルト裁判所ノ判決ニ據
ルトヲ問ハス其訴訟終了ノ後ニ非サレハ右代價ヲ
引取ルヲ能ハサル様爲ス可キヲ賣主ヨリ買主ニ
請求スルヲ得可シ

註解

第七百十八條 本條例ハ外國諸法典ニ比スレハ一个
ノ新制ニシテ辯明ヲ要スルモノナリ
夫レ賣主ハ辨濟ヲ受ケサルハ解除ノ權ヲ有スルコ
トハ人ノ知ル所ナリ(次條ヲ看ヨ)而シテ又賣主ハ其賣渡
シタル物件上先取特權ヲモ有スルモノナリ是ヲ以

テ買主之ニ代價ノ辨濟ヲ爲サ、ルキ賣主其物件ノ
 所有權ヲ取戻ス_トヲ望マサルニ於テハ其物件ヲ公
 賣ニ附セン_トヲ要求シ以テ買主ノ自餘ノ權利者ヨ
 リ先ニ其代價ヲ以テ己レカ辨濟ヲ受クル_トヲ得
 此二个ノ權利カ能ク其有益ナ_ル効力ヲ生スルカ爲
 メ、ニ第三ハ人ニ對抗スル_トヲ得ルヲ要ス詳言スレ
 ハ買主ノ權利者及ヒ買主ニ於テ物件ヲ再賣シタル
 所ノ權利者ニ對抗スル_トヲ得ルヲ要ス○然ルニ物
 上_ノ權ハ之ヲ發生スル所ノ証書ノ登記又ハ直接特殊
 ノ記入ヲ以テ充分ナル公示ノ式ヲ經タル後ニ非ス

ソハ第三ノ人ニ對抗スル_ト能ハサルモノナリ
 賣主ノ先取特權ニ關シ此公示式ヲ設クルハ第四編
 ニ於テスヘシ而シテ解除ノ權モ亦同シク公示ノ式
 ニ附セラル可シ

若シ賣主ノ權利ヲシテ第三ノ人ニ對抗セシムルカ
 爲メニ揭示セル法式ヲ遵奉セサルニ於テハ賣主ハ
 佛蘭西法典ノ文面ニ據レハ「物件ト代價トヲ失フ」ニ
 至ル可シ(佛蘭西法典第千六百五十五條)
 固ヨリ此場合ニ於テ賣主ハ其利益ヲ失フノ責メヲ
 己レニ歸セサルヲ得サル_ト明カナリ然レモ賣主ノ

法式ヲ遵守セサルコトヲ非難シ且ツ之レカ爲メ利益ヲ得ヘキ者ハ買主ニハ非サルナリ○故ニ賣主辨濟ノ抵保トシテハ甚ク危険アル可キ買主ノ資力ノミヲ有スルキハ買主ハ洗滌手續又ハ第七百十六條ニ豫定セル物上訴權ノ遷延ヲ奇貨トシテ代價ノ辨濟ヲ延引シ其財産ヲ消費シ或ハ又之レヲ隱匿スルヲ以テ正當ノコト爲ス可カラス

是ヲ以テ我草案ハ金圓預役署ニ代價ノ奇託ヲ爲スコトヲ賣主ヨリ請求スルコトヲ認許セリ(第四百九十五條以下ヲ見ヨ)

寄託ノ目的

寄託ハ賣主買主ノ兩名ヲ以テ爲スコトヲ要ス是レ蓋シ一方ニ於テ他ノ一方ノ承諾ト參同トノナキハ寄託シタル金額ヲ請取コトヲ得サラシムルカ爲メナリ○此規則ノ結果トシテ右金額ハ買主又ハ賣主ノ權利者ノ爲ス可キ渡方差押ノ目的物タラサルコトヲ認メサル可カラス若シ然ラサレハ寄託ハ毫モ各自ノ有スル安寧ノコトヲ生セサレハナリ○而メ種々ノ訴訟ノ終リタルキニ非サレハ寄託金ニ付キ權利ヲ有スル者ニ其金ノ歸着スルコトナル可シ若シ此場合ニ於テ爭論ノ生スルアラハ法廳之レヲ裁定ス可

買主ハ受取キ後
移譲合

キモノトス○此景狀ニハ種々ノ結果アルモノナルヲ以テ吾人ハ簡單ニ之ヲ指定ス可シ

（第一ノ場合）第七百十六條ニ據ルニ辨濟ニ猶豫ノ

理由ヲ與ヘタルモノハ物上訴權ナリ而シテ賣主ハ代

價ノ返還ニ付キ保証ヲ附與スルヲ能ハサリシカ故

ニ從テ其代價ヲ掌握スルヲ得サリシナリ然レト

モ一旦賣主ハ妨害ヲ止息シ爲メニ奪取ノ危険ヲ失

ハシメタルニ因リ乃チ買主ノ許シヲ得テ又ハ裁判

所ノ判決ニ據リ嘗テ其寄託アリタル代價ヲ領收ス

ルニ至ル可シ

賣主ノ取ル

（第二ノ場合）右同一ノ設例ニ於テ賣主全部又ハ一

部ノ奪取ノ危険ヲ消滅シ得サリシトニ於テハ買主

ハ賣買ノ無効ヲ申告シ又ハ自己ニ存スル利益ノ不

充分ナルニ因リ賣買契約ヲ廢止セシムルカ或ハ又

ハ代價ノ減少ヲ請求ス可シ此場合ニ於テハ買主コ

ソ其嘗テ寄託セシ金額ノ全部又ハ一部ヲ領得ス可

キ者ナリ

（第三ノ場合）賣渡シタル不動産ニ付キ既ニ記入シ

タル書入質又ハ特權ノ附着シタル債主權ノ存在ス

ルヲアル可シ此場合ニ於テハ賣主ハ洗滌ノ法式ヲ

賣主ノ取ル

賣主ノ取ル

簡單ナラシメンカ爲メ自己固有ノ財産ヲ以テ權利者等ニ賠償ヲ與フルコアル可シ此時ニ於テ寄託金ヲ受領スル者ハ即チ此賣主ナリ

（第四ノ場合）又同一ノ設例ニ於テ賣主ヨリ賠償ヲ受ケサル權利者等ハ買主ヨリ爲シタル代價ノ提供ヲ承諾スルコアリ此場合ニ於テ寄託金ヲ受取ル者ハ右ノ權利者等ナリ然レトモ其金額ヲ受取ルニハ必ス賣主ト買主トノ許シヲ經ルヲ要ス

（第五ノ場合）權利者提供セラレタル代價ヲ以テ未タ充分ナリト思慮セサルニ付キ公賣ニ附スルコヲ

權利者ノ取付

買主ノ取付

求ムルコアリ此場合ニ於テハ新買主アル可クシテ最初ノ買主ハ嘗テ其寄託モシ全額ヲ引取ル可シ何トナレハ此買主ニ於テハ毫モ代價ヲ拂フノ義務ナケレハナリ

第七百十九條 若シ買主ニ於テ其買受ケタル物件引渡ヲ請求スルノ權利ヲ有スルキニ其引渡シヲ受ケ

サルキハ賣主ハ第四百九十五條乃至第五百條ニ從ヒ其提供及ヒ寄託ノ手續ヲ爲スコトヲ得可シ

然レモ需用品又ハ其他急カニ毀敗ス可キ物件ニ關スルキハ賣主ハ買主ノ負擔ニテ其物件ヲ再ヒ賣渡

ス可シ但シ其手續ヲ爲スヲ得ルキニ限ルモノト
ス

註解

第七百十九條 抑モ買受ケタル物件ノ領得ハ獨リ其
買主ノ權利ナルノミナラス又其義務タルニ外ナキ
ナリ

而ノ買主ニ於テ仮令ヒ其物件ノ代價ヲ拂フタルモ
其物件ヲ賣主ノ方ニ存在セシムルヲ能ハス蓋シ若
シ其物件賣主ノ方ニ存スルキハ賣主ニ繁雜ヲ加フ
ルノミナラス又賣主ヲシテ或ル注意ヲ以テ之レカ

保存ヲ爲スノ義務ヲ永ク負擔セシムレハナリ○是
ヲ以テ本條ニハ賣主ニ提供及ヒ寄託ヲ爲スノ權利
アルヲ認メタリ而シテ其權利ハ恰モ本條ニ引用セ
ル數條ニ於テ一般ニ權利者カ自己ノ受取ルヘキモ
ノチ受取ラサルニ方リ其義務者ノ爲メニ設定シタ
ルモノ、如シ

此場合ニ於テ我草案ハ佛蘭西法典ノ如クニハ論定
セス佛蘭西法典ハ「需用品及ヒ其他動產物」ノ賣買ノ
場合ニ於テハ「引取り即チ持去リノ爲メニ約シタル
期限ノ經過シタル時」ハ當然其賣買ノ解除スル旨ヲ

明言セリ○他又佛蘭西法典ハ代價ノ未タ辨濟ナカリシ場合ヲ假想シタルト明カナリト雖モ本條ニ於テハ一般ニ涉ルモノヨシテ既ニ代價ヲ拂ヒシ場合ニモ適用ス可シ○此最終ノ設例ニ於テハ契約ノ解除ハ賣主ノ爲メニ利アルモノニアラス蓋シ其嘗テ領收セシ代價ヲ返還セサル可カラサレハナリ本條ノ第二項ハ買主ノ利益ヲ豫見シタリ即チ物件カ急カニ其全價ヲ失フノ憂ヒアルハ買主ノ負擔ニテ賣主ヲシテ再ヒ之ヲ賣却スルノ義務ヲ負ハシムルニ在リ

第三款 賣買ノ解除及ヒ廢棄

第一節 賣買解除

第七百二十條 若シ雙方ノ中一方ノ者モ於テ前條々ニ定メタル義務ノ全部又ハ一部若クハ其他總テ契約上特別ニ其者ノ^{負擔}服從^シ可キ義務ノ全部又ハ一部ヲ履行スルトヲ欠キタル場合ニ於テ他ノ一方ノ者之レカ爲メ受ケタル損失アレハ第四百四十一條乃至第四百四條ニ從ヒ其損失ノ賠償ト賣買契約ノ解除トヲ法庭ニ訟求スルトヲ得可シ若シ違約ノ爲メ本契約ヲ解除スヘキトヲ雙方間ニ

明瞭ニ約權シアルキハ裁判所ニ於テ其違約者ニ猶豫期限ヲ許容シテ右解除ヲ延引スルヲ得ス然レトモ契約ノ執行ヲ欠キタル者カ遲滯ニ附セラレタルモ之ヲ等閑ニ附シタルキニ非サレハ右ノ解除ハ當然其効力ヲ生スルモノニアラス

註解

第七百二十條 双方ノ中何レカ一方ノ者ニ於テ義務ヲ履行セサルニ因レル賣買契約ノ解除ハ普通法ノ適用ニ過キサルナリ然レトモ屢々其適用ヲ爲スハ恐クハ賣買契約中ニアル可キヲ以テ茲ニ之ヲ特別

ニ記載スルハ是レ法律ノ慣例ニ因ルモノナリ抑モ賣買契約ノ解除ノ行ハルハ概テ買主ノ不利ナル可シ何トナレハ買主ノ義務ハ金額ヲ辨濟スルニアレハ亦其義務ヲ盡スニ最モ困難ナルハケレハナリ
佛蘭西法ハ賣渡シ物件引渡ノ虧缺アリタル爲メ(第一千六百十條)及ヒ買主ノ部分奪取ヲ受ケタル爲メ(第一千六百三十六條及ヒ第一千六百三十八條)賣主ニ對スルノ賣買解除並ニ代價辨濟ノ虧缺(第一千六百五十四條乃至第一千六百五十七條)アリタル爲メ買主ニ對ス

ル賣買解除ヲ區別シテ豫定シタリキ○然レトモ草
 案ハ普通義務ノ事項ニ於テ掲ケタル解除ニ關スル
 普通原則ノ範圍内ニアリテ已上二個ノ解除ヲ併合
 シ之レカ爲メ共通ノ法文ヲ掲ケタリ
 蓋シ法律ハ既ニ受ケタル損失ノ賠償ヲ以テ解除ニ
 併合スルヲ許容シタリト雖モ其得ルニ缺ケタル利
 益相殺ノ一ヲ以テ解除ニ併合スルヲ許容セサル
 ヲ注意ス可シ既ニ第四百四十四條ニ於テ賠償ノ爲
 メ此境界ヲ定メ(損害賠償)ナル普通語辭ヲ用非サル
 ノ一ヲ説明シタリ是レ他ナシ人或ハ契約ヲ破毀セ

シメタル一方ノ者ニシテ是解除シタル賣買ノ利益
 ヲ有シ再ヒ右同一ノ物件ヲ首料トシ新利益ヲ得テ
 新契約ヲ爲スノ權能ヲ有スルハ實ニ正當ノ一ニア
 ラサル可シト云フ者アルヲ以テナリ
 蓋シ義務ノ不執行アル爲メ生スル解除ハ暗黙合意
 ノ効力ヨリ生ス可キモノニシテ即チ此場合ニ於テ
 右解除ヲ主張スル一方ノ者ハ裁判所ニ出訴スルヲ
 要ス而シテ裁判所ハ被告人タル一方ノ者ニ恩惠ノ
 猶豫期限ヲ與ヘテ解除ヲ停止スルヲ得可シ然レモ
 裁判所ノ此權能ハ普通義務ノ事項(第四百二十六條)

ニテ指示シタルモノニシテ爰ニ再説スルノ必要ヲ見サル二三ノ場合ニ於テハ止息スルヲ知ル可シ。佛蘭西法ハ(第一千六百五十五條)ニ(賣主カ物件及ヒ代價ヲ失フノ危険ニアル場合ニハ)裁判所ノ買主ニ猶豫期限ヲ認許スルノ權能ヲ拒絕セリ即チ己上ノ事タル賣渡シ物件ノ引渡アリタル場合ニ動産ノ賣買ニ於テ屢々生ヌ可ク且ツ前己ニ豫定セシ賣主カ其先取特權保存ノ爲メ及ヒ其解除ノ權利ヲ第三ノ人ニ對抗シ得ル爲メ要スル法式ヲ忽ニシタルノ場合ニ於テ不動産ノ賣買ニ於テ生シ得可キヲナリトス

故ニ縱令ヒ引渡ノ既濟又ハ未濟ナル賣渡物件ニシテ買主及ヒ第三ノ人ノ間ニ未タ何等ノ合意ノ目的物ヲラサルモ雖モ解除ノ權利ヲ實行スルニ於テ尙ホ其益アル可ク而シテ賣主ハ己ニ實行アリタル解除ヲ公ケニシ以テ第三ノ人ノ將來ニ係ル一切ノ權利要求ヲ免ル、ヲ得可キナリ。○蓋シ草案ハ爰ニ佛法第一千六百五十五條ノ條例ニ類似シタルノ條例ヲ掲載セス何トナレハ第四百二十六條ハ(權利者カ猶豫期限ヲ與ヘタルトニ付キ重大ナル損害ヲ受ク可キ場合ニハ)一般ニ裁判官ノ右猶豫期限ヲ許容ス

ルヲ拒絶シタレハナリ
 然ルニ双方者ハ又義務不執行ノ爲メニハ契約ノ解
 除アルヲ公ケニ約權スルヲ得可シ此ノ如クスレ
 ハ則チ双方ノ者ハ裁判所ニ出訴スルヲ要セスシテ
 當然解除アル可シ是ヲ以テ過失ニアル一方ノ者ニ
 恩惠ニ係ル何等ノ期限ヲモ與フルニ及ハサルナリ」
 然レハ此當然ノ解除タル義務ノ執行ナク滿期ト爲
 リタルノ効力ノミニテ生ス可キモノニアラス尙ホ
 期限ノ滿チタルノミノトカ義務者ヲ遲滯ニ置ク可
 シトノ合意アラサル如ク裁判所外ノ訴訟手續キノ

所爲ヲ以テ義務者ヲ遲滯ニ置カサル可ラス是レ蓋
 シ普通法ノ適用ニ外ナラサルナリ(第四百四條)
 佛蘭西法典ハ當然解除權ノ生スルニハ遂ニ効力ナ
 キニ至リシ督促アリシトヲ要スルト爲シタルヲ以
 テ或ル論者ハ義務者ニ特殊ノ保獲ヲ與フルモノ、
 如クニ看做シタリ然レハ此場合ニ於テハ普通法ニ
 依遵シタルモノト謂フ可キナリ

第七百二十一條 代價ノ辨濟期限ヲ定メテ爲シタル
 動産賣買ニ付キ物件引渡ヲ實行シタル中ハ賣主ハ
 右代價ノ辨濟ヲ受ケサルカ爲メ買主ノ自餘メ權利

者、損害ヲ加ヘテ賣買ノ解除權ヲ行フヲ得サルモノトス

又右賣買ニ代價辨濟ノ期限ヲ定メザルハ賣主ハ

引渡ヨリ八日間ニ賣買ヲ解除セシムルヲ得然レ

モ善意ナル第三ノ人ノ既ニ獲得シタル物上權ヲ害

ス可ラス〔佛民法第二千二條第四項〕○伊太利民法第

千五百十三條

註解

第七百二十一條 凡ソ動産ノ賣買ニ付テハ不動産ノ

賣買契約ニ關スルモト異リ買主ノ自他ハ權利者ニ

於テ解除ノ權ヲ知ルコト能ハス不動産ノ賣買ニ付テ

ハ登記証書中未タ代價ノ全部又ハ一部ヲ辨濟セサ

ル旨ヲ記載セルモトハ其後買主ト契約スル所ノ者賣

主ノ爲メノ解除ヲ被フルノ患アル可キコトヲ知得ス

○然ルニ動産賣買ノ証書ハ公示セサルヲ以テ買主

ノ權利者其一般ノ抵當タルモノト看做スヲ得可

キ其義務者ノ財産ヲ褫奪セラレ、ハ至當ノ事ニ非

サル可シ

然レモ法律ハ或ル區別ヲ爲シ以テ賣主ノ權利ヲ格

外ニ犧牲トセサルヲ要ス

(第一ノ場合) 辨濟期限ヲ定メテ賣買ヲ爲シタルニ
買主ニ於テ期限前ニ引渡ヲ爲シタリ此場合ニ於テ
ハ羅馬以來ノ文例ニ從ヒ賣主ハ買主ノ善意ニ自任
シタリト謂フ可キナリ故ニ買主ノ無資力ノ危険ヲ
承引シタルト爲ス可シ

同時ニ引渡ヲ爲シタルヲ以テ自他ノ權利者多分ハ
未タ代價ヲ辨濟セサルヲ知ラサルニ因リ賣渡物
件ヲ最早其義務者ノ解除ス可カラサル所有權ト爲
リ隨テ其抵當トナリタルモノト看做シタリ○此場
合ニ於テハ賣主單純ナル權利者タルニ過キス故ニ

約東代價ト利息トノ爲メニ實得シタル金額ノ分配
ニ加ハル可シ

(第二ノ場合) 辨濟期限ヲ定メテ賣買ヲナシ未タ引
渡ヲ爲サ、リシ此場合ニ於テハ解除ノ權完全ナリ
トス何トナレハ引渡未タ行ハレサルヲ以テ自餘ノ
權利者其物件ヲ自己ノ抵償ト看做ス可キニ非ラサ
レハナリ○其所有權ノ買主ニ移轉スルカ爲メニハ
引渡ヲ必要トセサルヤ疑ナシト雖モ若シ權利者此
移轉ヲ知リシナレハ亦タ其條件ヲ知ラサル可カラ
ス即チ其代價ノ未タ辨濟セサルヲ知ラサル可カ

ラス

第十四
第三ノ場合）賣買ニ期限ナク而シテ引渡行ハレタ
リ○賣主期限ヲ承諾セサルハ買主ノ善意ニ放任シ
タルモノニ非サルニ由ル然ルニ其引渡ヲ爲シタル
ハ即時ニ辨濟ヲ受ケントテ期セシカ故ナリ或ハ買
主ニ於テ虚構ノ言ヲ吐キ之レニ信ヲ措カシメタル
トモアル可シ賣主ハ解除ヲ請求スル前ニ過當ノ時
間ヲ經過セシメサルキハ之レカ爲メニ害ヲ被フル
トアル可ラス○法律ハ其解除權ヲ行フカ爲メ之レ
ニ八日ノ期限ヲ與フルノミナリ是レ佛法典ト同一

第十五
ノ期限ナリ（第二千二條第四項）伊太利法典ハ十五日
ノ期限ヲ許與ス（第千五百十三條）
此場合ニ於テモ猶ホ法律ハ第三ノ人ノ利益ヲ保護
センコトヲ慮リタリ然レモ其保護スル所ハ買主ノ一
切ノ權利者ノ利益ニ非ラスシテ物件上ニ物上權ヲ
獲得シタル第三ノ人ノ利益ノミナリ例ヘハ物件ノ
讓渡ヲ受ケ未タ引渡ヲ受ケサル第三ノ人若クハ抵
當權ニ基キタル權利ヲ有スル先取特權主又ハ其賣
渡物件カ其性質ニ依リ賃借人ノ先取特權ニ附セラ
レタル片買主ノ住宅ノ賃借人ノ如シ况ンヤ抵當ト

シテ物件ノ交付ヲ受ケタル權利者ノ眞ノ動産質權
 ノ如キハ一層之レヲ保護ス可キナリ
 然レモ法律ハ第三ノ人ノ撰取ヲ其善意ニ關セシム
 詳言スレハ動産ノ賣渡代金未タ辨濟セラレサルコ
 ヲ知ラサルヲ要ストセリ○而シテ其善意ハ此場合
 ニ於テモ亦タ通常ノ場合ノ如ク推測スルモノトス
 然レモ賣主ハ總テ通常ノ手段ヲ以テ第三ノ人代價
 ノ未濟ヲ知リタル旨ヲ証スルヲ得可シ

第七百二十二條 賣主ハ賣買證書中ニ記載セル買戻
 即チ買還ト名クル條約方法ヲ以テ若シ賣主ヨリ買

主ヘ代價及ヒ其支拂フタル費用ノ部分ヲ返還スル
 事ハ該賣買ノ解除セラル可キコトヲ約權スルヲ得ヘ
 シ
 其買戻期限ハ不動産ニ付テハ五年又動産ニ付テハ
 二年ヲ超過スヘカラサルモノトス
 若シ買戻條約ヲ一層長キ期限ニ定メタル事ハ其期
 限ヲ當然右制定期限ニ減縮ス可シ
 一旦期限ヲ定メタル事ハ二年又ハ五年ノ制限内ニ
 テモ之ヲ伸張スルコトヲ得ス
 然レモ該伸張ヲ買主ノ再賣約束ト看做スコトヲ得ヘ

キモノニシテ此場合ニ於テハ第六百六十三條及ヒ
第六百六十四條ノ條例ニ從フヘシ
賣買後又ハ別紙證書中ニ爲シタル買戻約束ニ付テ
モ亦々同シ

註解

第七百二十二條 抑モ本條ニ於テ賣主ニ聽許セル約
東ハ概シテ双方間ニ法律ヲ爲ス所ノ合意ハ自由ナ
リトノ法則ノ通常ノ適用ナリト看做ス可ク能ハス(第
三百四十八條)是レ賣主ニ許與シタル眞ニ一个ノ寬
典ニシテ其理由ハ下ニ之ヲ述ヘン故ニ買主ハ同一

ノ權能ヲ有セス且ツ此約束ヲ實行スルニ付キ設ケ
タル制限ヲ見ルモ單ニ合意自由ノ法則ヲ適用シタ
ルニ非ラサルヲ証ス

蓋シ本條ニ假定スル所ハ買主カ賣主ニ約シタル眞
ノ再賣ニ非ラサルヲ買戻即チ買還ノ稱ヲ附シタル
ヲ見テモ知ルヘキナリ買戻買還ノ語ハ羅馬以來ノ
文字ナレバ穩當ニ非ラサルナリ何トナレハ買主ヨ
リ其賣主ニ爲ス可キ新賣買ヲ云フモノニ非スシテ
本條ニ舉示スルカ如ク最初ノ賣買契約ノ解除即チ
既往ニ溯ツテ賣買契約ヲ破毀シ買主ヨリ第三ノ人

〇屬セシ物上權ヲ無効トスルモノナレハナリ〇斯
 ヲ説述シ來レハ法律上約權ノ使用ヲ制限シタルノ
 理由ヲ知了ス可シ蓋シ其約權使用ノ効力ハ大ニ第
 三ノ人ニ影響ヲ及ホスモノナレハナリ
 斯ノ如キ第三ノ人ノ權利ノ破毀アルヲ以テ正シク
 制法上買戻シ約權ヲ認許スルニ付キ躊躇セシムル
 所以ナリ〇勿論不動產〇關スルハ第三ノ人ハ最
 初ノ賣買ノ登記ニ因リテ契約解除ノ危険アル可キ
 一ヲ知ル一ヲ得可シ然レトモ斯ル場合ニ於テハ恐
 クハ第三ノ人ハ第一ノ買主ノ如ク實價ヨリハ低價

ニテ右ノ不動產ヲ買受ケタル可シ而ノ斯ノ如ク利
 益又ハ損失ノ殆ント等シキ所ノ運ニ任セテ物件ヲ
 其實價以下ニテ賣買スルハ常ニ遺憾トスル所アリ
 併シ若シ第三ノ人ニシテ解除ノ危険ヲ避ケンカ爲
 メ買主ト結約スル一ヲ止ムルニ於テハ經濟上ノ困
 難ヲ生ス可シ蓋シ財產ハ容易ニ融通スルヲ以テ有
 益ノ一トスルモノニシテ總テ新獲得ノ一ハ財產ヲ
 改良スル所ノ出費ヲ掛ケ乃チ需用又ハ利益ニ満足
 ナ與フルモノナレハナリ
 故ニ是等ノ難問ヲ退ケテ賣主ノ爲メニ契約ノ解除

買戻契約の理由

ヲ認許スルニ付テハ甚々重大ナル理由ナカル可カ
ラス而シテ此理由ハ經驗上ヨリ知了セルモノナリ即
チ吾人ハ往々所有者ノ一時金銭ニ困却スルヲ若ク
ハ其困却アルヘシト信スルヲ見タリ此場合ニ於
テハ其所有者ハ必ラス自己ノ不動産ヲ保証トシテ
金銭ヲ借用セサルヲ得ス然ルニ貸借ノ條件ハ利足
ハ巨額ヲ要スルヲ往々是レアルヘク爲メニ其義務
者ハ辨濟ノ期限ニ至リテモ負債ヲ拂フコト能ハサル
ニ至ル可シ此場合ニ於テハ巨多ノ費用ト遅延トヲ
以テ財産ヲ差押ヘタル上ニテ其買渡ヲ爲サ、ル可

カラス而シテ其結果ハ賣主ノ爲メニハ夫ノ自カラ自
由ニ承諾シタル賣買ニシテ其嘗テ受取リタル代價
ヲ或ル期限内ニ拂フニ於テハ再ヒ己レノ財産ヲ取
戻スノ權能ヲ附シタル賣買ヨリ卑惡ナリト云フ可
シ

買戻契約の理由

斯ノ如ク賣主ニ因テ買戻ヲ爲ス可キ約權ノ辨明ハ
同一ノ權能ヲ買主ニ附與セサルヲ説明ス可シ蓋
シ何人ト雖モ餘義ナク買受クルヲナカル可キヲ以
テ買主ニハ其買受ケノ契約ヲ解除スル權能ヲ附與
スルノ理ナケレハナリ他又斯ノ如キ解除ハ純然タ

ル〇人意ニ關スル契約ノ性質ヲ帶フルモノトス其故
 何トナルニ買主ニ於テハ買受ケタル物件ヲ讓渡シ
 又ハ書入質ト爲サ、ル以上ハ何時ニテモ之ヲ返還
 シ得ルモノナレハ唯其契約ヲ解除セントノ意ヲ有
 スレハ充分ナルモノナレハナリ〇勿論我草案(第四
 百三十五條)ニ於テハ佛蘭西法典(第一千百七十四條)ノ
 如クニハ純粹ニ人意ニ關スル未必條件ヲ禁セスト
 雖モ其果効ニ至リテハ大ニ之ヲ制限セリ〇之レニ
 反シテ解除ノ未必條件ハ賣主ノ意思ニ任カセテ行
 フト能ハサル可シ蓋シ賣主其契約ヲ解除セントス

ルニハ必ラス其受取リタル代價ヲ返還セサル可カ
 ラス面ノ其之ヲ返還スルノトハ往々困難ニシテ其
 嘗テ金錢ヲ要スルニ付キ餘義ナク賣却シタル片ヨ
 リ尙ホ一層困難ナル可ケレハナリ
 其他賣主金錢ヲ要スルニ付キ買戻ノ約權ノ基本
 ノ結果ハ尙ホ後文ニ於テ記載スルトアル可シ
 然レモ彼ノ買戻ノ權能タル經濟上ノ不利アルモノ
 ニシテ法律上極メテ狹隘ナル制限ヲ設ケタルモ其
 之レアルカ爲メナリ
 其第一ノ制限トハ嚴格ナル期限確定ノトニシテ即

ナ右期限ヲ經過スレハ賣主ハ其權利ヲ失フト是レナリ
 草案ニテハ少クモ不動産ノ爲メニハ佛蘭西法ト同一ノ期限ヲ採用シ買戻期限ヲ五年ト定メタリ然レハ佛蘭西法ハ動産ノ事ニ關シテハ右期限確定ノトハ全ク意想外ニ置キタルモノ、如シ何トナレハ該法ノ買戻ニ關シタル條例ノ總体ハ不動産ニ限リテ設ケタルモノ、如クナレハナリ○蓋シ草案ニテハ動産ニ關シ買戻ノ權能ヲ除却スル迄ニハ至ラザリシト雖モ又之レカ爲メ特別ノ制限ヲ設ケ右期限

ヲ一層短縮シテ二ケ年ト定メ且ツ買戻ノ爲メ生シタル買戻ノ解除ハ善意ナル第三ノ人ニ對抗ス可ラサルモノト爲シタリ

然ルニ双方ノ者カ其法律ニ暗キヨリ右ノ制限アルコトヲ知ラス五年又ハ二年ヨリ一層長キ期限ヲ合意シタリトセンニ此場合ニ於テ該合意ハ無効タラズ即チ右期限ハ法律上定メアル期限ニ減縮セラル可キナリ何トナレハ彼ノ(法律ノ禁シタル所ヲ爲シ而シテ法律ノ許シタル所ヲ爲サス)云々ノ古昔ノ格言ニシテ昔時ハ多ク濫用アリタルモノヲ賣主ニ對抗

スルハ實ニ理ニ違ヒタルモノニシテ六年又其ヨリ
 己上ノ約權ヲ爲セシ者ハ固ヨリ五年ヲ約權セシヤ
 明カナルモノナレハナリ
 尙ホ法律ハ爰ニ疑ノ生ス可キ他ノ點ヲ説明セリ即
 チ若シ買戻カ不動産ニ關シテ約權シタルモノナル
 ニ其期限ハ三年又ハ四年ト定メアルハ縱令ヒ其
 期限カ五年ヲ超過セサルモノナリト雖モ後日ニ至
 リテ之レカ爲メ二年又ハ一年ヲ延長スルヲ得スト
 爲シタリ是レ他ナシ己上ノ事タル第三ノ人ニ對抗
 ス可キ解除未必條件ヲ擴張ス可キモノナルカ故ニ

此期限ノ延長ノコタル單純ナル賣買アリタル後設
 ケタル買戻ノ約權ヲ許容セサルト同シク許容ス可
 キノコニアラサルヲ以テナリ
 然レモ尙ホ爰ニテ期限ノ延長ハ將來ニ係ル買戻約
 權ト等シク全然無効ナルモノニアラス何トナレハ
 法律ハ双方ノ者ノ意思ニ從ヒ己上ノ事ヲ以テ賣買
 豫約(即チ再賣買)ニ等シキカ或ハ少クモ賣買豫約ノ
 如ク見做ス可キモノナリト説キタレハナリ○蓋シ
 己上ノ賣買ノ豫約(再賣買)タル其之レアルノ前ニ買
 主ト約束ス可キ第三ノ人ノ權利ヲ害スルコトナク且

ツ右豫約ヲ將來買主ト約束セシ第三ノ人ニ對抗ス
可キハ其登記ニ依リテ顯ハレタル時ニテラサレハ
能ハサル可キナリ

己ニ第六百六十三條及ヒ第六百六十四條ニ於テ賣
ルコニ付テノ片務豫約ノ効力ヲ充分ニ説明シタリ

第七百二十三條 若シ賣主ニ於テ其賣買代價ノ半額
又ハ半額已上ノ辨濟期限ヲ附與シ而シテ右期限カ
買戻ノ爲メ定メタル期限ノ半ニ等シク又ハ其半已
上ナルキハ賣主有効ニ買戻ノ權能ヲ約權スルモ其
効ナカル可シ

註解

第七百二十三條 己上ノ條例タル全ク一個ノ新設ニ
係ルモノニシテ即チ買戻權能認許ノコトニ付キ法律
ニ附シタル原由ヨリ生ス可キ必要ナル結果トシテ
前己ニ論シタル所ナリ○然ルニ法律ハ右様ノ約權
ヲ爲ス賣主ハ金圓ノ需用ニ迫リ止ムヲ得ス爰ニ出
テタルモノナリトノ意ヲ以テ買戻ノコトヲ説明シタ
ルヲ以テ固ヨリ右賣買ノ約條及ヒ條件ハ法律ノ己
上ノ推測ニ違ハサラントテ要ス○蓋シ己上ノ事タ
ル賣主カ其代價ノ全部又ハ一部分ノ辨濟ノ爲メ延

長ノ期限ヲ附與シタル場合ニ於テ生ス可キナリ
 然ルニ又己ニ許容シアル期限ノ繼續時限及ヒ辨濟
 ノ猶豫アリタル代價額ノ影響ヲ以テ裁判所ノ査定
 ニ委ヌ可ラス尙ホ又總テ辨濟ノ爲メ許容シタル期
 限ハ其代價ノ如何ナル部分ニ關スルモノナルニ拘
 ラス賣主ヲシテ買戻ノ權能ニ於ケル其權利ヲ失ハ
 シムルコトヲ認許ス可ラサルナリ○蓋シ法律ハ賣主
 ノ買戻ノ權能ヲ約權セシハ其目的トスル所ハ云ハ
 困難ニ際シ止ムヲ得ス爲シタル賣買ノ不利ヲ醫
 治セントスルニ非スシテ其目的ハ賣渡物件ノ獲得

ス可キ増價ノ利益ヲ保有シ又ハ該物件ノ受ク可キ
 減價ノ損失ヲ免レントスルニ在リトノ已上二個ノ
 點ヲ確定セサル可ラス

然レモ代價辨濟ノ爲メ期限許容ノコトハ右期限カ代
 價ノ半額又ハ其ヨリ已上ナル額ニ關シタルモノニ
 シテ且ツ右期限ノ少シク延長ナルモニアラサレハ
 賣主ノ方ニ困難アリトノ意ヲ除却スルコトナシ是レ
 即チ法律カ代價辨濟ノ爲メ定メタル期限ト買戻ノ
 爲メ定メタル期限トノ關係ヲ以テ査定セシ所ナリ
 是レ他ナシ若シ買戻ノ期限ハ五年ニシテ代價辨濟

ノ期限ハ一年ナルハ賣主カ其契約ノ第一年目ト
第五年目トノ間ニ於テ金圓上ノ困難アルヲ豫想シ
タリト思惟スルヲ得可シト雖モ若シ代價辨濟期限
カ二年半又ハ三年ナルハ賣主カ是ノ如ク己前ヨ
リ金圓ノ需用アルヲ豫想シ前賣買ヲ以テ之レヲ救
治セント欲セシカ如クナラサルヲ以テナリ

第七百二十四條 不動産ニ關シテ制規ノ期限内ニ法
律ヲ定メタル條件ニ從ヒ買戻ノ權能ヲ執行シタル
キハ其執行ハ賣渡不動産ヲシテ賣買己後ニ買主ノ
供與シ又ハ買主ヨリ第三ノ人ノ獲得シタル一切ノ

物權ヲ免レシメテ賣主ノ手裏ニ歸セシムルモノト
ス但シ賃貸ノ殘餘期限三ケ年ヲ超過セサルモノハ
此限ニ在ラス
若シ又動産ニ關スルキハ賣渡物件上ニ善意ヲ以テ
物權ヲ獲得シタル第三ノ人ニ對シテ買戻ノ權能ヲ
執行スルヲ得サルモノトス

註解

第七百二十四條 爰ニ吾人ノ論スル所ノ權能ハ眞ノ
所謂買戻ナルモノニアラス彼ノ眞ノ買戻又ハ再賣
ナルモノハ其現形ノ儘ニテ即チ供與ノ供與シタル

物權ヲ負擔シタル儘ニテ賣主ニ賣渡物件ヲ再得セシメ且ツ又該賣渡物件ハ全ク讓渡セシモノナルハ賣主ヲシテ絶テ之レヲ再得セシムルコトナキモノナレハ己上ノ權能タル買戻ニアラスシテ引取ト稱ス可ク時ニ或ハ引取ト稱スル解除ナリトノコトハ本事項ヲ説クノ初メニ當リテ己ニ論シタル所ナリ蓋シ彼ノ解除ノ性質タル己ニ熟知セル所ニシテ彼解除ハ其破毀ニ附セシ契約ヲ爲シタル時ノ現形ニテ物件ヲ交付セシメ即チ既往ニ遡リテ其効力ヲ有スルモノトス(第四百二十九條)

爰ニ法律ハ買戻ノ權能ニ從ヒタル不動産ノ賣買ニ己上ノ原則ヲ適用シタルモノニシテ彼買戻ノ權能カ賣買証書中ニ記載シアリ而シテ其賣買証書ト同時ニ公ケニシタル時ニアラサレハ第三ノ人ニ對抗ス可ラサルモノナルカ故ニ第三ノ人ハ別ニ之レニ對シテ苦情ヲ述フルヲ得サル可キナリ法律ハ其物件ノ賃借權ヲ獲得シタル所ノ者ノ爲メ一個ノ例外ヲ設ケタリ然レモ其賃借權ノ殘期三年ヲ超過セサルノ條件ヲ附セリ○法文ニ據ルニ佛法典(第一千六百七十三條)及ヒ一般ノ解除條件ノ事項ニ

關スル本草案(第四百三十一條)ト異ニシテ其賃借ノ詐欺ニ出テサルヲ即チ善意ニ成リタルヲ要セス何トナレハ賃借權ノ期限短少ナル以上ハ後日ニ至リ賣買ノ成否如何ナルヘキニ論ナク買主ハ妥當有益ナル管理ノ處置ヲ爲シタルモノナレハナリ蓋シ善意ノ條件ハ管理ノ處置ニ他ノ制限アラサルハ非ラスンハ辨明スルヲ得サルモノナリ左レハ伊太利法典ノ賃借ノ爲メ三年ノ制限ヲ設ケタルニ尙ホ其詐欺ニ出テサルヲ要シタルハ奇異ナリトスルヲ得ヘシ(第千五百二十八條)

動産ノ賣買ニ係ルハ法律ハ買戻權能ノ約權ヲ禁セスト雖モ大ニ其効力ヲ減縮セリ即チ其解除ハ第三ノ人ノ獲得シタル物上權ヲ破却スルヲ能ハス是レ買戻ノ權能公示セラレサルヲ以テ第三ノ人之ヲ知ラサルヲアルヘキカ故ナリト雖モ此場合ニ於テハ多分ハ管理ノ處置ト謂ハンヨリ寧ロ處分ノ所爲タルニ因リ法律ハ第三ノ人ノ善意ナルヲ詳言スレハ其實ニ賣主カ權能ヲ貯存シタルヲ知ラサルヲ望メリ而シテ善意ハ之ヲ推測スルヲ得ヘシト雖モ惡意ノ直接ノ證據ヲ提舉スルヲ得ヘク又實際ニ於テ

ハ或ハ買主第三ノ人ト約束スルニ方リ之ニ解除ノ
 危害アルトヲ告知スルコトアルヘキナリ
 斯クノ如ク動産ニ付キ効力ヲ減縮セラレタル買戻
 ノ權能ハ買買ノ單純ナル片務ノ約務ト敢テ異ナル
 モノトハ見ヘサルナリ夫レ實ニ第三ノ人ノ惡意ハ
 之ヲシテ解除ヲ被ラシムルノミナラス亦タ賣買約
 務ノ効ヲ被ラシムルモノナリ又買主カ物件ヲ讓
 渡セス又約セスシテ無資力トナリタルノ事情ニ就
 キ差異アリト謂フ可カラス解除ニ依レハ賣主代價
 返還ニ代ヘテ賣主物件ノ全部ヲ自餘ノ權利者ト共

ニ配分スルコトナク取戻スコトヲ得而シテ賣買ノ豫約ニ
 依ルモ亦タ約權者同一ノ利益ヲ有シ代價ノ全額ヲ
 辨償シテ物件ノ全部ヲ得ヘク代價ノ應當ノ減額ヲ
 得ルモ物件ノ一部ヲ強テ受取ラシメラルハコトナカ
 ル可シ

故ニ解除即チ買戻ト賣買約務トヲ差別スルニ於テ
 或ル利益アリトスレハ動産賣買ニ賦課スルコトアル
 ヘキ祖稅ノ事項ニ關スルノ外之レ有ラサルナリ蓋
 シ賣買ノ豫約ハ所有權ノ移轉ヲ爲スニ因リ課稅セ
 ラルヘキモ買戻ニ至テハ賣主所有權ヲ取戻スニ於

テハ未ダ曾テ之ヲ失ハサリシモノト看做サルヘキ
ニ因リ課税セラル、トナカルヘキナリ
佛蘭西法典ハ動産ノ事項ニ付キ買戻権能ノ執行ノ
事ヲ明定セス善意ノ第三ノ獲得者ニ損害ヲ加ヘテ
之ヲ利用スルトテ聽許シタリト信シ難シ

第七百二十五條 賣主ノ權利者ハ賣主ニ代リテ買戻
ノ權能ヲ執行スルトテ得ヘシ

然レトモ買主ハ右權利者ニ於テ豫メ賣主即チ義務
者ノ無資力ナルトテ證明シ且其買戻ノ權能ヲ執行
スル爲メ第三百五十九條ニ循ヒ裁判上ニテ賣主ニ

代位ス可キトテ請求スルヲ得ヘシ

買主ハ又權利者へ賣主ノ負債ヲ皆濟シテ其買戻訴
訟ヲ停止スルトテ得可シ但シ權利者ヨリ豫テ買戻
權ヲ行フニ付キ買主へ返還ス可キ金高ヲ減除ス可
キモノトス

第七百二十六條 若シ買戻シノ約束ヲ以テ賣渡シタ

ル物件^{ニシテ}未ダ買戻サ、ル前ニ賣主^{檢事}之ヲ書入質トシ
又ハ之^手付キ其他ノ物上權ヲ他人ニ有^手セシムルキ
ハ此等ノ權利ノ効力ハ賣主自カラ^{若クハ}前條
ノ場合ニ於ケル如ク賣主ノ權利者ヨリ買戻シテ執

行スルニ從テ生スルモノトス

若レ又賣主カ買戻スヲ得可キ物件ノ所有權ヲ讓渡シタルキハ其獲得者ハ自己固有ノ名義ヲ以テ買戻ヲ執行スルヲ得可シ然レトモ其讓渡前ニ賣主ノ承諾シキル物權他ニ在リテ且登記式ニ因リテ^{公示}顯明ナラシメアルモノナルキハ右所有權ノ獲得者^{但此場合ニ在リテ其賣主ニ對シテ}之ヲ遵奉スルノ責任アルモノトス

註解

第七百二十五條 買戻ノ權能ノ執行ハ賣主一身上ニ限リテ附着スルモノニシテ其權利者等之ヲ執行シ

得サルモノ、如ク見做サル、ヲ得併シ此一身上ノ性質ハ外見上ノモノニシテ謂ユル眞ノ權利ニ關スルヨリモ寧ロ茲ニ掲クル權能ニ關シテハ尙ホ一層外見上ノモノナリシ

附言 尋常ノ權能ト謂ユル眞ノ權利トノ差異ニ就テハ第三百五十九條及ヒ其註解第百五十四號ヲ見ヨ

然レトモ法律ニ於テハ買主ノ受ク可キ危險アルヘキニ因リ財產ハ其實價ヲ以テ賣買セラレサリシヲ想像スルモノナレハ買主ヲシテ賣主ノ金錢ノ欠

乏ニ付テ利益ヲ受ケシムルハ之レ法律ノ欲セサル所ナリ若シ其賣主數多ノ權利者ヲ有スルニ付キ乃チ買戻ヲ實行スルヲ得サルニ方リ右權利者ヨリ買戻ニ必要ナル金額ヲ供シ以テ其義務者ノ財産ヲ再ヒ之レカ掌中ニ歸セシムルヲ以テ己レニ利アリト信スル片ハ法律上之ヲ許容スルヲ以テ正當トス是レ即チ種々ノ名義ニテ利益ヲ受ク可キ人々ノ間ニ於テ法律ハ其利益ノ獲得ヲ爲シ遂ケントスル者ヨリハ損失ヲ避ケントスル者ヲ撰擇シタル場合ノ一ニ外ナキナリ

然レトモ權利者ヲシテ濫リニ買戻ヲ爲サシメサルカ爲メ法律ハ權利者ヨリ豫メ其義務者(即チ賣主)ノ無資カナル旨ヲ證明スルヲ希望セリ斯ノ如キ希望ヲ爲シタリト雖モ佛蘭西法典(第千六百六十六條)ノ欲スル所ヨリハ僅少ナリ佛蘭西法典ニハ豫メ獲得者ヲシテ賣主ノ他ノ財産ノ索討即チ其財産ノ賣却ヲ請求スルヲ得セシメタリ又此索討ハ暗ニ彼ノ保證人ノ爲シタル索討ノ利益ノ規則(佛民法第二千二十一條乃至第二千二十四條)ト同一ノ規則ニ從フモノナレハ之レカ爲メ數多ノ制限、期限及ヒ入費

ヲ要ス可ク而シテ其之レヲ要スルハ關係人等ニ困難
 ナ與フルモ、ニシテ茲ニ説明スル場合ニ於テモ亦
 然リ故ニ法律ハ容易ニ關係人等ヲ保護スルノ處分
 ナ設ケ乃チ權利者ニ於テ其義務者ノ有スル權利ヲ
 執行スルコトヲ規定シタル彼ノ第三百五十九條ニ揭
 ケタル裁判上ノ代位ノコトヲ以テ足レリトセリ
 又買主ヨリ賣主ノ權利者ニ向テ賣主ノ負債ヲ皆濟
 シ以テ右權利者ノ買戻訴訟ヲ止ムルコトヲ右買主ニ
 許容シタルハ是レ新制規則ニ係ルモノニシテ茲ニ
 之ヲ舉示スルヲ要トス而シテ殊ニ此際ニハ買主ヨリ

權利者ノ權利上ニ受ケシム可キ金額ノ減除ノコトヲ
 法目セサルベカラス故ニ權利者ハ買戻訴訟ヲ執行
 スルニ於テハ買主ニ對シテ賣買ノ代價ト諸入費ト
 ナ拂ハサルベカラス而シテ是レ一箇ノ新タナル先拂
 ト云フ可シ又買主ニ於テ若シ其買受タル代價ト諸
 入費トヲ引去リテ賣主ノ負債ヲ權利者へ皆濟スル
 事モ亦同一ノ結果ヲ得ルニ至ル可シ而シテ權利者ハ
 此場合ニ於テハ寧ロ利益アリト云フ可シ何トナレ
 ハ權利者買戻ノ權能ヲ執行シ財産ヲ公賣ニ附シタ
 リト雖モ自己ノ完全ナル債主權ト其返還ヲ要ス可

キ代價トノ賠償ヲ受クルヤ否ニ付テハ未タ確乎タルコトアラサレハナリ

第七百二十六條 買戻ノ約束ヲ以テ賣渡シタル賣主

ハ未必ノ權利即チ買主ノ權利ノ解除ヲ執行スル迄ハ未定ノ權利ヲ有スルモノニシテ此權利ノ全部又ハ一部ヲ處分スルコトヲ得可シ

故ニ先ツ其賣主ハ買戻ノ權利ヲ讓渡スルコトヲ得ルモノニシテ即チ暗ニ其買戻ヲ實行シテ取戻スコトアルヘキ物件自カラノ讓渡ヲ示スモノナリ○又賣主ハ物件自カラヲ讓渡スコトヲ得是レ亦暗ニ其買戻ノ

權利ノ讓渡ヲ示スモノナリ而シテ斯ル場合ニ於テ他人ノ物件ノ賣買即チ其讓渡アリト見做スコトヲ得ス何トナレハ其物件ハ停止ノ未必條件ニテ自己ニ屬スルモノナレハナリ

又賣主ハ其物件ニ其他ノ餘リ重大ナラサル物上ノ權利ヲ附スルコトヲ得可シ即チ賣主ハ其物件ヲ書入質ト爲シ之ヲ質貸シ又之レニ入額所得權若クハ地役ヲ附スルコトヲ得ルナリ○然レトモ此等ノ場合ヨリ生スル結果ハ初メノ二箇ノ場合ヨリ生スル結果トハ大ニ異ナリテ所有權ノ支分權ヲ讓リ受ケタル者ハ

自己ノ名義ヲ以テスルモ尙ホ賣主ノ名義ヲ以テスルモ決シテ買戻ヲ執行スルコトヲ得ス而シテ其自己ノ名義ヲ以テ買戻スコトヲ得サルモノハ是レ其讓受人ニハ未定ノ所有權ヲ讓渡セサレハナリ又賣主ノ名義ヲ以テ買戻ヲ爲シ得サルハ是其賣主ノ權利者ナラサレハナリ但シ書入質ノ場合ハ此限ニ在ラス附言 書入質ヲ有スル權利者ハ前條ヲ援用スルコトヲ得可シ

故ニ以上掲ケケル附從ノ物上權ハ實際其權利ノ屬スル以外ノ者ニ因レル買戻ノ執行ニ服從セリ

先ツ(第二)賣主自カラ買戻ヲ實行ス可シ而シテ其之ヲ實行スルルルハ之レカ爲メ既ニ承諾セル權利ヲ確認スルノミナラス自己ノ讓受人ニ對スル擔保ノ義務ヲ免カル、モノナリ

(第二)ハ前條ニ豫定セル場合ニ於テハ賣主ノ權利者ニ於テ買戻ヲ爲ス可シ即チ此場合ニ於テハ權利者其義務者ノ名義ヲ以テ義務者ノ權利ヲ執行シタルカ故ニ右買戻ノ結果ハ義務者自カラ之ヲ執行セシキト同一ナラサルヲ得ス斯ル場合ニ於テハ權利者ノ方ニ買戻ノ執行ヲ輕率ニ爲サ、ルノ原由ナリト

云フ可シ何トナレハ權利者ハ前述ノ讓受人ヨリハ利益ヲ得ルコ或ハ少ナケレハナリ而シテ茲ニ舉示スル物上權ハ公示セラル、モノナレハ權利者ニ於テ其何タルヤハ之ヲ知了ス可キモノトス

此事項ニ付キ買主權利者ニ賠償ヲ與ヘテ其關係ヲ解クノ權利ヲ使用セント欲スルハ賣主ニ因テ承諾セラレタル物上權ノ價額ヲモ引去ルコトノ許シヲ得可キコトヲ注視ス可シ何トナレハ買戻ハ此等ノ權利ヲ確認ス可キモノニシテ權利者ニ於テ右物件ヲ賣却セシムルハ此等ノ權利自カラヲ附シタル儘

ニテ賣却スルニ過キサレハナリ

(第三)ニハ買戻ノ權利ノ讓受人又ハ其買戻シニ定メタル物件自カラノ讓受人買戻ヲ爲ス可シ○勿論此讓受人ハ自己固有人名義ヲ以テ買戻ヲ執行スルコトヲ得然レトモ買戻ノ約束ニテ物件ヲ賣渡シタル賣主ニ因テ既ニ設定セシ權利アルキハ讓受人之レヲ貯存スルニ非サレハ買戻ノ權利又ハ其物件ヲ獲得スルコトヲ得ス而シテ讓受人ニ於テ此等ノ權利ヲ貯存スルモ之レカ爲メ毫モ意外ノ害ヲ蒙フルコトナカル可シ蓋シ此等ノ權利ハ既ニ登記ニ因テ顯明ナルノ

ミナラス讓受人ハ賣主ニ對シテ擔保ニ於ケル訟求
權ヲ有ス可ケレバナリ

第七百二十七條 賣主制規ノ期限内ニ買戻ノ權能ヲ
使用スルキハ其賣買原價及ヒ契約入費辨償ノ外ニ
尚ホ物件保存ノ爲メ要シタル費用ヲ買主ニ辨償ス
可シ

若買主右金額ヲ受クルヲ拒絕シタルキハ該金額ハ
直チニ附託役所ニ附託シ置ク可シ

其他賣主ハ物件改良ノ爲メ要シタル費用ヲ辨償ス
可シ但シ右ニ關シテハ賣主裁判所ヨリ相當ノ期限

取ケルコトヲ
ヲ得可シ

己上ノ金額辨償皆濟ニ至ル迄買主ハ物件留置ノ權
ヲ有スルモノトス

註解

第七百二十七條 第七百二十二條ハ賣買代價及ヒ買

主ノ拂フタル契約入費ノ一部分ハ常ニ賣主ノ負擔
ニ歸ス可キモノナルカ故ニ只右金額辨償ノコトノミ
ハ賣主買戻ノ權ニ付テ賣主
ノ負擔ニ付テ買主ノ負擔ニ付テ

ヲ以テ其義務ノ如ク説キタリト雖モ賣主ヲシテ右
ノ外ニ買主ノ爲シタル或ル費用ヲ辨償セシムルハ
實ニ正當ノコト云フ可キナリ

蓋シ己上ノ事ニ付キ許多ノ適用ニ遭逢センカ爲メ
 ニハ他人ノ物件上ニ爲ス可キ三種ノ費用アリテ存
 スルハ己ニ熟知スル所ニシテ物件保存ノ爲メノ必
 要ナル費用、物件改良ノ爲メノ有益ナル費用及ヒ費
 澤ノ費用即チ純粹ナル快樂ノ費用即チ是レナリ又
 物件ヲ得タル所有者ハ其占有者ニ前二種ノ費用ヲ
 辨償ス可キヲモ己ニ知ル所ナリ(第二百八條)且ツ其
 買主奪取ニ逢フタル場合ニ於テ贅澤ノ費用ハ買主
 ノ善意ヲ以テ爲シタルモノナルキハ賣主之レカ辨
 償ヲモ負擔ス可キハ最モ近頃見タル所ナリ(第六百

九十五條)○爰ニ吾人ノ論スル場合ニ於テハ賣主ノ
 第三種ノ費用ヲ辨償セサルモ最初二種ノ費用ヲ辨
 償スルハ實ニ正當ノヲナル可シ故ニ賣主最初二種
 ノ費用ヲ辨償セサルキハ買主ヲ害シテ自ラ富マシ
 タルモノナリト雖モ贅澤ノ費用ニ付テハ毫モ負擔
 スル所ナキナリ何トナレハ該費用タル物件ニ増價
 ヲ與フルモノニアラス且ツ買主ノ之レカ爲メ受ケ
 タル損失ハ其不注意ニ歸セサルヲ得サルモノナレ
 ハナリ

然ルニ法律ハ最初二種ノ費用間ニ存スル一ノ差異

ヲ示シタリ即チ必要ナル費用ハ賣買ノ代價ト等シク買戻ノ爲メ定メタル期限内ニ辨済ス可キモノニシテ若シ右期限内ニ之レヲ辨済セサルハ賣主其權利ヲ失フ可シト雖^レ有益ノ費用ニ至リテハ賣主辨済ノ爲メ期限ヲ請求シ且之レヲ得可シトセリ○蓋シ其然ル所以ノモノハ該種ニ屬スル費用ハ別ニ必要ナルニアラスシテ買主ノ之レヲ爲セシハ賣主ノ利益ヲ計カリシヨリハ寧ロ自己ノ爲メ偶然ノ利益ヲ豫想セシモノナルカ故ニ買主ハ賣主ヲ障害セシ爲メ右ニ關シテハ極メテ巨額ノ金圓ヲ請求スル

ヲ得可ク若シ法律ニテ右辨償ノ爲メ賣主ノ期限ヲ得ルヲ許容セサルニ於テハ此事タル惡意ノ買主ノ爲メニハ買戻ヲ免ル、一ノ手段ト爲ルニ至ル可シ何トナレハ買主買戻ヲ避ケント欲スル通常ノ状態ニ於テ賣主ニ取リテハ常ニ利アルヨリハ寧ロ困難ナル可キ其身代ニ比シテ不相當ナル有益ノ費用ヲ爲スヲ以テ足ル可ケレハナリ

蓋シ佛蘭西法ハ(第千六百七十三條)已上二種ノ費用(必要ノ費用及辨償)ノヲ以テ同列ニ置キ一ノ不注^ヒ意ヲ醸シタレハ草案ニテハ勉メテ之ヲ避ケサル可

カラス

本條ノ末項ニテ買主ニ認許セシ彼ノ留置ノ權ハ第
四編ニ於テ見ル可キ物上抵保ノ一ニシテ己ニ第二
條ノ列記中ニ示シタル所ナリ

第七百二十八條 買戻ノ約ニ於ケル賣買ノ主料不動
産未分ノ部分ナル場合ニ於テ買主他ヨリ其不動産
分割ノ爲メ公賣ノ請求ヲ受ケタル際自カラ其財産
全部ノ落札人トナリタル時ハ賣主其受取りタル代
價ニ公賣ノ額ヲ加ヘ全部ノ爲メニ非レハ買戻ヲ行
フヲ得サルモノトス

買主モ亦タ其全部ノ買戻ニ對抗スルヲ得ス若シ
買主ヨリ其公賣ヲ請求シタルモノナルキハ賣主ハ
其賣渡シタル部分ノ爲メニ非レハ買戻ヲ行フヲ
得ス
買主モ亦タ此場合ニ於テハ全部ノ買戻ニ對抗スル
ヲ得

註解

第七百二十八條 本條及ヒ以下ノ諸條ハ特別ノ時機
ニ於テ買還ノ執行ヲ規定スルモノナリ○其普通ニ
シテ要領タルノ原則ヲ考フルニ法律ハ殊ニ買還ノ

効ニ因リ所有權カ双方ノ者ニ於テ豫見シ得タリシ
所若クハ至當トスル所ヨリ多ク分離スルヲ恐レタ
ル是ナリ

第七百二十八條、第七百二十九條及ヒ第七百三十條
ハ不動産未分ノ部分例ヘハ二分一三分一四分一
等ノ買還ノ約アル賣買ニ關スルモノナリ

若シ賣主買還ヲ行フノ日ニ於テ物件カ同一ノ形狀
ヲ存シ買主ト自他ノ共同所有者トノ間ニ毫モ分派
ノ處置アラサリシハ賣主單純ニ其未分ノ部分ヲ
復取シ該共同所有者ト並ヒ立テ共同所有者トナル

ヘシ○此點ニ付テハ敢テ因難ヲ生スルコトナキニ因
リ法律ニ於テハ規定スル所ナシ

然レモ第七百二十八條ニ據リ左ノ場合ヲ假定セシ

第一 共同所有者ノ一人買還ノ約アル買主ニ對シ
分派ヲ請求シタルコト

第二 現物ヲ以テ分派ヲ行フコトヲ得サルノ故ニ不
動産ノ公賣詳言スレハ之ヲ難賣ニ附セサル可カラ
サルコト

第三 買還ノ約アル買主高札ヲ入レ以前未分タリ
シ財産全部ノ落札人トナリタルコト

○右ノ場合ニ於テハ買戻權ノ猶ホ賣主ニ屬スルヤ果シテ然ラハ如何シテ之ヲ執行スルヤノ問題生出スヘシ

蓋シ買戻權ノ存在スルハ敢テ疑ヲ容ルヘキニ非ラス○該權ノ他ノ共同所有者ニ對抗セラル、ヲ得ス賣主ニ於テ共有財産分派ヲ請求スル該所有者ノ權ヲ害シ又ハ停止スルヲ能ハサルヤ明カナリ何ントナレハ合意ハ第三ノ人ニ對抗セラル、ヲ得サレハナリ然レモ賣主ハ公賣落札ノ結果ニ依リ當時ニ至リテハ財産全部ノ所有者トナリタル買主ニ對シ其

買戻ノ權ヲ保持スルモノナリ

○又此他一個ノ問題アリ即チ賣主ハ其賣渡シタル部分ノ爲メニ非ラスンハ買還ヲ行フヲ能サルヤ將タ其全部ニ付キ之ヲ行フ可キヤ是ナリ○草案ハ佛蘭西法典(第一千六百六十七條)ト同シク其全部ニ付キ之ヲ行フ可シト決シタリ蓋シ買還ノ約アル買主ハ自分ヨリ分派ヲ請求シタルニ非ラス己レニ對シ之ヲ求メラレタル者ナリ該買主ハ己レニ賣渡サレタル部分ヲ適法ニ保存スルノ權ヲ有スルモノニシテ之ヲ保存スルカ爲メニハ全部ヲ獲得スルヲ要シ公賣

ノ代價トシテ其有セサリシ部分ノ價格ヲ支辨シタ
 リ是レ物件保存ノ爲メニ爲シタル必要ナル費用ナ
 ルカ故ニ其買得ノ原價ト共ニ之カ返還ヲ受クヘク
 而シテ其全部ヲ賣主ニ還附スヘキナリ若シ賣主ニ於
 テ此費用ヲ爲スヲ欲セス又ハ爲ス能ハサルキハ其
 買戻ノ權ヲ失フヘシ○勿論買戻ノ爲メニ定メタル
 期限ノ到ルニ非ラサレハ決意スルノ義務アラサル
 ナリ

本條第二項ハ佛法典ノ緘黙ニ附シ去リタル一个ノ
 問題ヲ判定スルモノナリ○買主ニ於テ賣主ノ部分

買○還○ヲ行フコトヲ拒ムホハ賣主之ヲ行フ能ハスト謂
 フハ未タ足ラサル所ナリ尙ホ買主全部ノ買還ヲ拒
 ムコトヲ得ルヤ否ヤヲ決スルヲ要ス○蓋シ買主カ公
 賣ニ因リ獲得シタル所ノ未分ノ部分ヲ保持スルヲ
 望ミ買還ノ約アル賣買ニ依リ得タル所ヲ返還セン
 ト欲スルコトアルヘシ○然レモ法律ハ此欲望ヲ聽許
 ス若シ果シテ然ルキハ買主ニ一切ノ利益ヲ舉ク與
 フモノナルヘシ何ントナレハ全部ノ獲得カ之ニ不
 利ナリト認ムルキハ賣主ヲ強テ之ヲ取り其負擔ト
 爲スヘク又之ニ利アリト認ムルキハ其一部ヲ保持

スヘク然ルニ双方間如斯權利ノ差異ヲ生スルハ双
務契約ノ性質ニ反スレハナリ

全部ノ買還ハ賣主ノ爲メニハ義務ナレモ亦タ一个
ノ權利ナリトス而シテ買主ニ於テ之ヲ受クルハ一个
ノ義務ナリ

部分ノ買還アルカ爲メニハ双方之ヲ承諾スルヲ要
ス

第三項ハ第一項ト相對スルモノニシテ其仮定スル
所ハ買還ノ約アル買主ニ對シ公賣ヲ請求シタルニ
非ラスシテ該買主ヨリ之ヲ請求シタルニ是ナリ而

ノ全部ノ落札人トナリタル者ハ亦タ該買主ナリ
此場合ニ於テハ買主全部ヲ買フタルニ因リ買還ノ
約ヲ附シテ買求メタル未分ノ部分ノ保存ノ爲メ必
要ナル費用ヲ爲シタルト謂フ可カラス蓋シ公賣ヲ
求メタル者該買主ナルニ因リ之カ爲メ其賣主ノ位
置ヲ不利トスルコト能ハサルナリ是ヲ以テ賣主ハ其
賣渡シタル部分ノ爲メニ非ラスンハ買還ヲ行ハサ
ルヲ得ヘシ○然レモ亦タ全部ノ買還ニ至テハ買主
承諾セサル片ハ之ヲ行フコト能ハス○是レ亦タ權利
及ヒ利益同等ナルヘシトノ原則ニ由ルモノナリ

前述二箇ノ規則ノ適用ニ付キ買戻契約ニ係ル買主
 ニ因リ若クハ其他ノ共同所有者ニ因リ賣主ヲシテ
 財産ノ公賣ニ關スル訴訟ニ參與セシメシヤ否ヤヲ
 區別セサリシナリ
 斯ノ如ク訴訟ニ參與スルトハ賣主ノ未定ノ權利ニ
 基ツイタルモノニシテ却テ賣主ト其舊共同所有者
 トノ關係ニ係ルキハ甚タ重要ナル可シ然レトモ本
 條ニ掲ケタル二箇ノ主クル決定ハ(第一項及ヒ第三
 項)公賣處分ニ賣主ノ參加フルト參加セサルトニ因
 テ變更セラレヘキモノニ非ス其故何トナルニ是レ全

ク賣主ト買主トノ關係ノミニ係リテ賣主買主ト第
 三ノ人トノ關係アルニ非ス但シ第三ノ人ノ關係ハ
 次條ノ目的トス
 第一項ノ場合ニ於テハ若シ賣主ヲシテ訴訟ニ參與
 セシメシハ賣主ヨリ買主ニ對シテ公賣ノ代價ヲ
 返還シテ再ヒ物件ノ全部ヲ受取ルトテ拒ムヲ得サ
 ルヤ明カナリ何トナレハ買主ヨリ請求シタル所爲
 ニ非スシテ買主ニ對シテ請求アリタル所爲ニ賣主
 ノ立會フタルキハ其所爲ニ付テ買主ノ方ニ毫モ非
 礙ヲ受クルコトナカル可ケレハナリ

右同一ノ場合ニ於テ若シ賣主ヲシテ訴訟ニ參與セシメザリシキモ亦其論決ニ異ナル所ナシ實ニ賣主ハ公賣落札人トナリシ者ナル可シト申告スルニ非サレハ其立會セサルヲ以テ自己ニ害アリト述フルコトヲ得ス然ルニ賣主ハ當時ニ在テモ自己ノ爲メニ最モ有益ナル時期ニ於テ公賣物ヲ獲得スルノ權利アル者ナリ何トナレハ賣主ハ公賣ノコトヲ考察スル時間ノ外ニ其物件ハ價額ヲ増セシヤ否ヲ探究シ且物件全部ヲ獲得スルニ必要ナル資本ヲ實得スルニ容易ナルモノナレハナリ

第二項ノ場合ニ於テハ公賣ヲ請求シタル者ハ買主ナリ而シテ若シ賣主訴訟ニ參與セザリシハ法文ノ決定ニ異議スルコトヲ得ス何トナレハ訴訟ニ參與スルノ事狀タル若シ之ヲ以テ趣旨ナリト認メタリシキニハ買主ニハ不利ナルモノニ過キサレハナリ然レトモ假令ヒ賣主ヲシテ訴訟ニ參與セシメタルト雖モ常ニ全部ノ買戻ヲ拒ムコトヲ得可シ何トナレハ賣主ハ物件全部ノ獲得者トナルコトヲ欲セザリシニ因リ其公賣ノ際高札差入人トナラザリシナリト申告スルコトヲ得レハナリ

今ヨリ賣主カ公賣ノ訴訟ニ參與セシヤ否ヲ知了スルノ重要アル設例ヲ論究ス可シ

第七百二十九條 若シ公賣ノ落札共同所有者ノ一人又ハ外人ニ歸シタルキハ何レノ方ヨリ其公賣ヲ請求シタルヲ問ハス該公賣物未分ノ部分ノ賣主其公賣ニ招換セラレサルニ於テハ其賣渡シタル部分ノミノ爲メ落札人ニ對シ其部分買戻ヲ行フノ權ヲ保存ス可シ若シ又其公賣ニ招換セラレタルニ於テハ此買戻權ヲ失フモノトス

註解

第七百二十九條 本條ニハ公賣カ共同所有者中ノ一人又ハ外人ノ爲メニ宣告セラレシトテ假想ス蓋シ此等ノ人ハ公賣ニ參與スルヲ認許シ得ルノミナラス時トシテハ必ラス之ヲ認許スルヲ要スレハナリ(佛蘭西民法第千六百八十七條ヲ看ヨ)

(第一ノ場合)即チ賣主ヲシテ訴訟ニ參與セシメザリシトハ賣主ノ未定ノ權利ヲ斟酌セサリシモノニシテ是レ不適當ノコナリ故ニ賣主ニ於テハ公賣ヨリ生シタル結果ヲ非難シテ若シ之ニ立會セシキハ自カラ高札差入人トナリタル可キト主張シ或ハ又他

人ヲ參與セシメサリシ場合ニ於テハ賣主ハ此者ヲモ呼出シタル可シト云フコトアル可シ勿論賣主ノ立會ナクシテ實行セル公賣ハ之ニ向テ對抗スルコトヲ得サル可ク且之レカ爲メ賣主ヨリ其買主ノ承權人ト見做サレタル公賣落札人ニ對シテ執行ス可キ買戻ノ權利ヲ除却スルコトヲ得ス故ニ買主ニ於テハ自己ノ權利自カラ解除ニ服從セシモノナルニ於テハ勿論廢棄ス可カラサル權利ヲ人ニ附與スルコトヲ得サリシナリ

(第二ノ場合) 茲ニテハ賣主ノ訴訟ニ參與セシメテレタルヲ想像セシモノニシテ即チ此ノ場合ニ於テハ賣主ハ高札差入人ト爲ルヲ得可シ然ルニ若シ賣主金圓ナキノ故ヲ以テ又ハ其他ノ原由ノ爲メ高札ヲ入レサルハ賣主ハ之レカ爲メ公賣落札人ヲ苦ムルコト能ハサルモノニシテ其買戻ノ爲メ約權シタル期限ヲ利用スルコトヲ得サル可シ何トナレハ彼買戻ノ合意タル他ノ共同所有者ニ對抗ス可カラサルモノナレハナリ○其然リ故ニ己上ノ場合ニ於テ賣主ハ公賣落札人ニ對シテハ總テ其權利ヲ失フ可キナリ

然ラハ則チ己上ノ場合ニ於テ賣主ハ公賣代價ヲ獲
 シカ爲メ買主ヨリ受取リタル賣買ノ代價ヲ提供シ
 之レニ對シテ一種ノ買返權ヲ實行スルノ權利ヲ保
 存スルヤ○即チ共同所有者中ノ一人カ共同物件ノ
 其未分ノ部分(半額)ヲ一千圓ニ賣渡シタルニ右共同
 物件ノ全部ヲ二千四百圓ニテ公賣ニ附シタルニ依
 リ買返ヲ受ケタル買主ハ公賣代價ニ於ケル其部分
 トシテ一千二百圓ヲ受ケ取リタリトセンニ賣主ハ
 其賣買原價一千圓ヲ買主ニ返附シ公賣代價一千二
 百圓ヲ受取ルヲ得可キヤ

蓋シ或ル著述者ハ己上ノ場合ニ於テ賣主ハ右公賣
 代價ヲ受取ルヲ得可シト主張スル者アリト雖ヒ吾
 人ノ見ル所ニ依レハ此ノ說タル顯然タル誤謬ナル
 カ如シ

先ツ最初ニ吾人ハ賣主カ公賣ニ參預セシメラレス
 是故ニ第三ノ人タル獲得者ニ對シテ其解除ノ權ヲ
 實行シ得可キノ場合ニアルモノト假定セン乎此場
 合ニ於テ賣主ハ一ハ物件自ラニ關シ一ハ公賣代價
 ニ關スル二個ノ買返ヲ併合スルヲ能ハサルヤ確實
 ナリ○蓋シ己上ノ場合タル全物件ニ關シテ買返條

約付ノ賣買アル場合ト同一ナルモノニシテ若シ買主カ賣主ノ第三ノ人タル獲得者ニ對シテ右物件ヲ追求スルヲ得可キ期限内ニ右物件ヲ再賣シタルハ賣主ハ其追求權利ノ實行ヲ怠ルモノナルカ故ニ買主ニ對シテ其己ニ辨濟シタル賣買ノ原價ヲ返還シテ其再賣ニ依リテ得タル代價ヲ要求スルヲ得サルハ又爭フ可ラサルナリ

其然リ故ニ吾人ハ賣主其追求ノ權利ヲ失フタル場合ニ於テハ賣主固ヨリ己上ノ權利ヲ有セサルモノト主張セント欲スルナリ是レ蓋シ只ニ賣主ノ參豫

セシメラレタル公賣アルノ場合ニ於テノミ生スヘキノコナラス尙ホ其買主カ第三ノ人ヲ奪取ヨリ保護セシメシメカ爲メ賣主ヲシテ右公賣ニ參同セシムル通常再賣アルノ場合ニ於テ生ス可キノコナリトス

草案著述者ハ賣主ハ只買主ニ對シテ其賣買原價一千圓ヲ請求スルヲ得ルノミト說カントス而シテ是レ決シテ買返シテ實行セシニハアラサルナリ○即チ已上ノ場合ニ於テ契約ノ條件ハ全然變換セシモノナル可シ何トナレハ賣主ハ買戻ヲ實行スル爲メ

處分シ得可キ何等ノ金額ノ需用ヲモ有セサル可ク
 善運ハ總テ賣主ニ在リ惡運ハ總テ買主ニ在ルモノ
 ニシテ物件ノ得可ク又ハ受ク可キ増價若クハ減價
 ハ絶テ買戻上ニ影響ス可キモノニアラサレハナリ
 又賣主ノ己上ノ主張タル公益ノ原由ノ爲メ所有權
 ノ引上ケアル場合ニ於テモ等クシ認許ス可ラサル
 モノトス故ニ賠償ヲ受ケ取リタル買主ハ買戻代價
 ノ返還ニ對シテ其賠償金ヲ返還スルニ及ハサル可
 シ是レ他ナシ彼所有權ノ引上タル關係人ノ爲メニ
 ハ現時受授ヨリ引去ラレタル物件上ニ存スル私權

ノ關係ヲ絶ツ所ノ抗拒ス可ラサルカノ効力ヲ生ス
 ル官府ノ所爲ナルヲ以テナリ
 若シ、又買返條約付ニテ賣渡シタル物件カ火災ニ依
 リテ滅盡シ而シテ買主カ右ニ付キ、保險金額ヲ領收
 シ又ハ過失ノ本主ヨリ賠償ヲ受取リタルキニハ尙
 ホ前同一ノ論決ヲ下スヲ得可シ何トナレハ己上二
 個何レノ場合ニ於テモ賣主ノ爲メ買返シノ權利ハ
 消滅ス可ク而シテ此事タル常ニ同一ノ理由ニ依ル
 モノニシテ解除ヲ以テ己ニ滅盡シタル物件ヲ再買
 シ又ハ再獲スルヲ得ルノ理ナク而シテ又縱令ヒ買

主カ右ニ關シテ對價物ヲ得タルキト雖モ該對價物
ハ買返又ハ解除約條ノ目的ニ非ラサレハナリ

第七百三十條 原物ヲ以テ分派ヲ爲シ而シテ賣主右
分派ニ招換セラレタルキハ其分派ヲ申シ立タル者
ノ何人タルヲ問ハス他ノ共同所有者ニ歸シタル部
分ニ付キ賣主ヨリ何等ノ要求ヲモ爲スコトヲ得スシ
テ只買主ニ歸シタル部分ヲ取返スコトヲ得ルノミ但
シ右ノ場合ニ於テ買主ノ供給シ又ハ受取リタル補
足物金ノアルキハ賣主買主間互ニ之ヲ計算ス可キ
ハ勿論ナリトス

若シ又賣主其分派ニ招換セラレサリシキハ賣主ノ
撰擇ニテ或ハ分派ヲ確認シテ買主ニ對シ前段ノ權
利ヲ執行シ或ハ買主ヨリ受取リタル代價ヲ之ニ返
還シテ其共同所有者ニ對シ更ニ其分派ヲ申立ルコ
トヲ得可シ

註解

第七百三十條 本條ニテハ最早公賣ヲ爲スノ必要ア
ル場合ヲ想像セズ即チ爰ニテハ未分ノ物件ハ原物
ニテ分派スルヲ得ルモノニシテ共同所有者ハ各分
割シタル其部分ヲ得可ク若シ又各右共同所有者權

利ノ量ニ應シテ精算ニ其部分ヲ算スルヲ得サルハ
 ハ多量ヲ受取リタル者ヨリ少量ヲ受取リタル者ニ
 辨償スル補足金額即チ分前ノ返リ高ノ法方ヲ以テ
 精算ヲ完備スルヲ得可キナリ

蓋シ己上ノ設例タル佛蘭西法ニ於テモ其他ノ外國
 法ニ於テモ未タ豫定シアラサル所ナリ

然レ此爰ニテハ單ニ公賣ノ場合ニ於ケルト同一ノ
 論決ヲ適用スルヲ得ス殊ニ此場合ニ於テハ分派ハ
 買主ニ依リテ申立テラレタルモノナルヤ又ハ買
 主ニ對シテ申立テラレシモノヤヲ知ルノ點ニ於ケ

ルヨリハ寧ロ賣主ハ其偶然ノ權利ノ故ヲ以テ右分
 派ニ參與セシメラレタルヤノ點ニ因據ス方最モ優
 レルカ如シ

第一ノ設例○賣主分派ニ參與シタル片ハ首トシテ
 此機會ニ乘シ直チニ其賣渡シタル部分ノ買戻ヲ執
 行スルヲ得可ク而シテ買主己ニ右ニ付テハ無關係
 ト爲リタルカ故ニ分派ハ賣主ト其共同所有者トノ
 間ニテ爲サル可キモノニシテ右分派ハ固ヨリ廢止
 ス可ラサルニ至ル可キナリ
 又縱令ヒ賣主其買主ニ辨償シ得可キノ地位ニアラ

サルキト雖凡尙ホ賣主ノ分派ニ臨ムハ之レカ爲メ
 有益ノコタル可シ何トナレハ賣主右ノ場合ニ於テ
 分派ハ原物ヲ以テ爲ステ得可クレハ別ニ公賣ヲ爲
 スノ必要アラサルコトヲ證明スルヲ得可ク而シテ右
 ノ點ニシテ一旦確定シタルニ於テハ賣主ハ各共同
 所有者ノ權利ニ從フテ其分前ニ不同アル可キコトヲ
 注視スルヲ得可ク而シテ殊ニ其不同アルノ故ヲ以
 テ分前ヲ定ムルニ抽籤ノ方法ニ因ル能ハサル場合
 ニ於テハ賣主ハ買主ニ歸シタル部分ニ補充金額ヲ
 加フルモ尙ホ原物ニテ過少ナラサルカ又其辨濟ハ

他日之レカ爲メ極メテ利アル可キ補足金額ヲ加フ
 レハ原物ニテ過多ナラサルカノコトヲ注視スルヲ得
 可キナリ

蓋シ己ニ一旦執行シタル所爲ハ尙ホ他ノ共同所有
 者ニ對シテハ廢止ス可キモノニアラスト雖凡買返
 ヲ受ケタル買主ニ對シテハ然ルモノニアラス是ヲ
 以テ若シ賣主買戻ヲ執行セント欲スルニ於テハ其
 賣渡シタル未分ノ部分ヲ表示スル所ノ買主ニ歸セ
 シ分割シタル部分ヲ返還シテ買戻ヲ執行スルヲ得
 可シ○且ツ法律ハ若シ買主ノ分前カ其部分ノ廣袤

ヲ超過セシノ故ヲ以テ補足金額ヲ辨濟ス可キモノナルルハ賣主ハ第七百二十八條ニ規定セシ公賣ノ代價ニ等シク必要ノ費用トシテ右補足額ヲ辨濟セサルヲ得ス又之レニ反シテ買主其分前ノ不充分ナル故ヲ以テ補足額ヲ受取リタル場合ニハ賣主ハ買主ヨリ其分前ニ右補足金額ヲ併セテ受取ルヲ得可ク又ハ其返還ス可キ賣買代價中ヨリ右補足額ヲ減殺シテ買主ニ返還スルヲ得可シノヲ附加シタリ」

第二ノ設例 賣主分派ニ呼ハレサレシ此際ニ於テハ處爲ヲ之ニ對抗スルヲ能ハスト雖モ賣主ハ常ニ

之ヲ批准スルヲ得何人ト雖モ此權利ヲ爭フヲ能ハス然ルルハ總テノ事柄第一ノ設例ニ於ケルカ如クナル可シ

若シ賣主之ヲ批准セサルルハ何人タリトモ處爲ヲ對抗スルヲ能ハス加之ス其買主スラ固ト分派ヲ請求セサリシト雖モ賣主ヲ招喚セサルノ過アルニ因リ之ヲ對抗スルヲ能ハサルモノトス○是ヲ以テ賣主ハ買戻ノ權ヲ行ヒ始ムルヲ得詳言スレハ其受取リタル代價ヲ買主ニ返還シ以テ其賣渡シタル未分ノ部分ヲ復スルヲ得而シテ賣主ハ其共同所有者ニ對